

毎日・世論フォーラム

25周年記念誌

25周年
記念講演会

米ウォール・ストリート・ジャーナル

ピーター・ランダース

300回記念例会

時代の論点—これからの25年

自由民主党元幹事長

石破 茂

活発な会員交流の場に ~2017会員交流会~

女性活躍の風を語る ~女性会員座談会~

博多世論ほろ酔い談義

毎日新聞政治部長OB座談会
この25年で政治はどう変動したか

毎日・世論フォーラム

25年を振り返る

~時代を彩る講師陣たち~



毎日新聞



くじゅう連山・坊ガツル湿原の
豊かな自然は人の手で
守られていることを
初めて知りました。

カメラマン いわい あや



野焼きの際の延焼を防止するための
防火帯をつくる「輪地切り」(8月)



「輪地切り」で刈った草を集めて焼き払い、
防火帯部分に新芽がでないようにする
「輪地焼き」(9月)



草が枯れ、十分に乾燥した状態で行う
「本焼き」(3月)



活動に参加した地域の皆さんの笑顔



坊ガツル湿原では、古くから野焼きが続けられ、その環境が守られていました。

しかし、昭和40年代半ばから野焼きが途絶え、坊ガツルは一度、荒れた原野となりました。

私たちは、地域の方々とともに、平成12年、32年ぶりに野焼きを再開。

坊ガツルは美しい風景を取り戻しました。

「快適で、そして環境にやさしい」

そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。

これが私たちの思いです。



九州電力

ずっと先まで、明るくしたい。

坊ガツル湿原環境保全活動については、九州電力のホームページをご覧ください。

九州電力

検索

ごあいさつ ～25周年記念誌発刊にあたり

さらに内容を充実させ、皆様の期待に応えるフォーラムへ

会員各位の皆様には、いつも大変お世話になっております。

「毎日・世論フォーラム」は1992年1月、毎日新聞創刊120周年記念事業としてスタートしました。本年、発足25周年という大きな節目を迎えることができました。また9月に通算300例会を達成しました。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜物と、心より感謝いたしております。

「毎回タイムリーな講師を呼びますね」と高い評価をいただいています。同業他社の講演会もありますが、この「タイムリーな講師陣」、タイムリーな話題こそが「毎日・世論フォーラム」の一番の魅力と自負しています。

さて、このたび、世論フォーラムの四半世紀の歴史をまとめた「25周年記念誌」を発行する運びとなりました。これまでの講演会にまつわるエピソードと、今年2月の米紙ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長のピーター・ランダース氏による25周年記念講演会、9月の300回記念例会での石破茂・自由民主党元幹事長の「時代の論点」と題した講演会の模様なども収録しています。ご覧いただければ幸いです。

表紙の鮮やかな旗は、10月28日で東京2020オリンピックの開幕まで1000日となるのを機に、毎日新聞社が東京本社のあるパレスサイドビル（東京都千代田区二ツ橋）の壁面に、国際オリンピック委員会（IOC）に加盟する206カ国・地域の旗を装飾した「国旗デコレーション」の様子です。

オリンピック・パラリンピックが大会を経るごとに人々の心をつかんでいくように、「毎日・世論フォーラム」もさらに内容を充実させて、これから

400回、500回と回を重ね、会員の皆様のご期待に応えていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



毎日新聞社 代表取締役社長

丸山 昌宏

ココロがある。コタエがある。

誠実なココロで人と向き合い、ベストなコタエをご提案する。

それが、創立以来ずっと変わらない西日本シティ銀行の仕事です。

お客さまの人生のパートナーとして、企業の皆さまの事業のサポーターとして。

「九州でいちばん頼れる銀行」を目指し、西日本シティ銀行は挑戦し続けます。



ココロがある。コタエがある。
西日本シティ銀行

表紙の写真



2017年10月28日の東京2020オリンピック開会式1000日前に合わせて、IOC加盟国・地域の国旗でデコレーションされた毎日新聞本社ビル。

目次

54	49	41	37	33	28	23	18	13	10	6	5	3
ホームページのご案内・あとがき	会員一覧	「世論フォーラム」これまでの講演会（300回）	博多世論居酒屋レポート	博多世論居酒屋レポート	女性活躍の風を語る／会員女性座談会	毎日新聞政治部長座談会／この25年で政治はどう変動したか	2017会員交流会	石破 茂（自民党元幹事長 VS 山田孝夫（毎日新聞特別編集委員）	300回記念例会／時代の論点 これからの25年	米 WSJ ピーター・ランダース 東京支局長	25周年記念講演／トランプ大統領の誕生と日米経済のゆくえ	会員からのメッセージ
											毎日・世論フォーラム／この25年を振り返る	ごあいさつ 毎日新聞社社長 丸山昌宏

「継続は力」レベルの高い聴講者

権威ある毎日・世論フォーラムに政界で講師登板回数が多いこと。まことに光栄です。

さて、私が橋本政権の政調会長時代は「自・社」の連立政権でした。当時カウターパートナーの社会党は及川・夫政調会長、政調会長代理は、初当選の「ひよこ」議員だった辻元清美氏でしたが、熱心に自民党の政策や国会運営の手法を学ぼうとしておられました。その辻元氏が、野党第1党の立憲民主党の国対委員長に就任されました。20年前「私が伝授した国会運営の要諦」を思い起こし取り組んでおられると自惚れております。辻元氏も「度フォーラム講師に起用されてはと思います。また、小泉政権の幹事長時代は「自・公・保」の連立政権でした。保守新党の幹事長は今をときめく「階級博士」小泉政権は構造改革路線であり、メインテーマである郵政民営化を断行。法案が参議院で否決され、禁じ手の衆議院解散（2005年8月）を強行し、反対派の自民党議員を公認せず、刺客を差し向ける世に云う「小泉劇場」です。今回（2017年10月）の総選挙は「小池劇場」。「希望の党」は「失望の党」に転落しました。この辺りも是非、貴フォーラムでの解説をお願いします。毎日フォーラムは聴講者のレベルが高く、主催者側も聴講者の需要に見事にミートしておられると存じます。継続は力なり、益々のご発展を祈ります。



元自民党副総裁・
元衆議院議員

山崎 拓

ユニークな取り組みに期待

政治家の話を直接聴く。これは我々、地方では得難い機会であり大変ありがたいことだと思っている。政治家も高名な大実力者もあれば、これから期待される気鋭の若手もいる。それぞれの政治家の政策論は当然ながら「人物」が分かる。気迫を感じ得る。政治家にとっても地方の人々と会い、それぞれの地方の事情を識（し）るまたとない機会のはずだ。

加計学園問題における前川前文部科学省次官と加戸前愛媛県知事の相異なる証言の報道の仕方は各社によって大きく違っていた。新聞やTVの場合、報道やその解説には記者の政治的な立場あるいは社論が入る。事実について常に軽重を判断し選択をしなければならぬ報道の本質的な性格上、偏向は避けられない。

その点、政治家の講演では我々が自分の基準で評価し判断できる。

「日本を代表する政治家」に接し質問し握手できる毎日・世論フォーラムのユニークかつ貴重な試みは今後とも盛大に続行してもらいたい。大いに期待している。



学校法人福岡工業大学
最高顧問（前福岡県知事）

麻生 渡

九州から日本を動かす

毎日・世論フォーラム25周年を心からお祝い申し上げます。我が国のGDPは正しくこの25年間、約500兆円のまま横ばいでしたが、ここへきてようやく今年4～6月期に543兆円へと増加しています。しかしながらGDPの世界シェアは1990年の約14%から昨年は約6%にまで落ち込んでいます。何よりも懸念されるのは我々に危機感の共有が無いことです。私も2015（平成27）年8月の会員交流会では、九州・山口地域各界の方々200名を前に、「九州から日本を動かそう」Let's move Japan forward from九州!というテーマで講演させていただきましたが、九経連では九州・山口地域の特性を活かし、観光や農林水産業、再生可能エネルギー、IoTの分野をはじめ人材育成やインフラ、地方分権改革等々の諸課題に取り組んでいます。政府は「GDP600兆円」を掲げて未来投資戦略2017に基づく「Society 5.0の実現に向けた改革」に取り組んでいますが、我々リーダーは明るく、かつビジョンや使命感をしっかりと持つ目標を掲げ、到達に向けて地域をリードしていくことが大切だと思います。その思いを共有し、毎日・世論フォーラムが今後30年、50年……と続いていくことをお祈り申し上げます。



（一社）九州経済連合会会長

麻生 泰

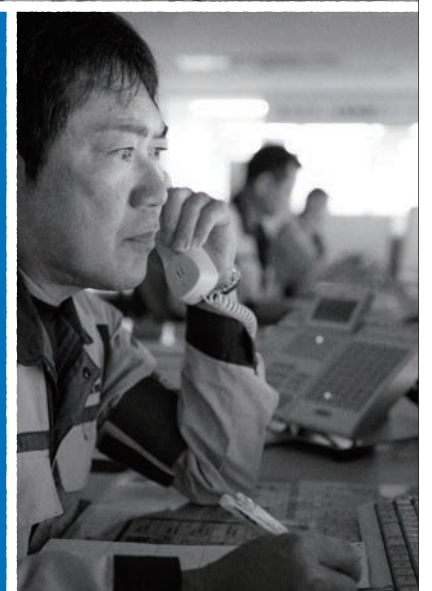


なんでもない
毎日が続いていく。
それが、いちばんの
幸せです。

おいしいごはんがある。
あたたかいお風呂がある。
そこには、ガスのぬくもりが、ちゃんと届いている。
この何でもない当たり前の日常を支えることが、
私たち西部ガスの使命です。
ガスをつくり、ガス管をつなぎ、そして、
24時間365日ずっとガスの安全を見守ること。
80年以上、私たちは続けてきました。
すべては、ふつうの人々の、ふつうの暮らしが、
ふつうに続いていくために。
今、この瞬間も、西部ガスは動いています。

これからも、
ずっと、ずっと。

西部ガス



毎日・世論フォーラム 25年を振り返る

九州から明日の日本を考え25年、300回



世相を反映、タイムリーで多彩な顔ぶれの講師陣

「九州から日本の明日を考える」をメインテーマとして、1992（平成4）年に創設された「毎日・世論フォーラム」（主催・毎日新聞西部本社）が今年9月の例会で25周年記念の300回目を迎えた。

「政治と経済が集中する東京で今、何が起き、日本はどこへ向かうとしているのか」。こんな疑問に対する答えやヒントが読み取れる、常にタイムリーなテーマの選択。首相経験者や閣僚級あるいは党首級の政治家を含む多彩な顔ぶれの講師陣で、一番ホットな情報を提供し続けてきた講演会は、今や九州・山口地区で最も権威ある講演会の一つとして定着。メディアに取り上げられることも多く、九州・山口地域のオピニオンリーダーにとって欠かせない存在ともなっている。フォーラムのさらなる成長を期して、25年の歩みを振り返る。

（毎日・世論フォーラム事務局・松中友広）

21世紀の九州・山口を 考える機会を目指して

毎日新聞は1992年2月に創刊120周年を迎えるのを機に、全社を挙げて記念事業を企画。この中で、九州・山口地域に新聞を届ける西部本社はまず「日刊紙でわが国最古の歴史と伝統を持つ毎日新聞として、どうしたら東京から遠い九州・山口地域の期待に一番応えられるのか」を中心に考えた。

折から日本は1990年代に入っ
ていわゆる「バブル」が崩壊して景気
後退期に突入。日本中が将来に大き
な不安を抱き、その対策に苦慮して
いる時期。一番必要とされたのは現状
分析や将来の見通し等についての「情
報」、特に求められたのが、政治を
動かす有力な政治家や政府の中で枢
要な地位を占める政策決定者の「生

の声」だった。

好運なことに当時、西部本社の上
西朗夫編集局長は東京本社で政治部
長を経験しただけでなく、一時は「総
理の座に『番近い男』として期待され
た政界のプリンスの加藤紘一氏
（2016年9月9日、77歳で死去）
と東京大学の同窓で、呢（じ）懇
の間柄。加藤氏や上西編集局長の政
治部長時代の人脈を活かせば、きつ
と政界からの協力が得られるとの判
断は、西部本社が「毎日・世論フォー
ラム」を提案する直接の動機となった。

世論調査の実施や 異業種交流の懇親会も開催

一方、記念事業の企画には編集か
ら販売、広告までオール西部本社
の幹部及び社員が参画。講演会の開催
だけでなく、定期的な世論調査の実
施（第一回は九州・山口の男女千人
を対象に実施）と会報「よろん」の
発行、また、本格的な「異業種交流」
の先駆けともなるフォーラム会員によ
る懇親会の継続開催（1997年4
月から講師派遣事業も開始）も決
定した。

この後、西部本社内の担当者は社
外への協力要請に駆け回り、発起人



会メンバーには川合辰雄・九州・山
口経済連合会会長、山下敏明・福
岡商工会議所会頭、安川寛・北九
州商工会議所会頭、大野茂・九州
電力代表取締役社長ら九州・山口の
トップリーダー18人（肩書はいずれも
当時）に名を連ねていただいた。発
起人会は1991（平成3）年12
月16日「ホテルニューオータニ博多」
で開催。続いて運営委員会（九州電
力を始めとする九州・山口を代表す
る企業の実務責任者14人で構成）も
開かれ、正式にスタートした。

外務省からの全面協力も得られ、
講演会に対しては後援名義の使用も
許可された。第一回講演会の名義後
援が許可されたのは平成4年1月8

日付（報内第19号）。許可権者は渡
辺美智雄・外務大臣だった。外務省
の協力はその後の講師派遣にも及び、
第190回（2007年11月、榎
泰邦・前駐インド大使）まで毎回の
ように外交官に世界の情勢について話
していただいた。

会員の対象は政治、経済、文化を
リードする九州・山口地域の企業や
団体及び自治体関係者と地域の発展
を願う有志の方々とした。発足当初
の参加企業・団体は192社で、内
訳は特別会員21社・団体（福岡都
市圏15、北九州都市圏5、熊本県
1）、一般会員171社・団体（福
岡都市圏117、北九州都市圏14、
筑後地区12、長崎県9、熊本県8、
佐賀県4・山口県4、大分県2、
宮崎県1）。

首相経験者など豪華な顔ぶれ

こうして各界各層の協力でスタート
したフォーラムの最大の特長は「その
時々で番切な政治家の話が聞ける」。

実際、1992年1月12日、ホテ
ルニューオータニ博多で開かれた第1
回の講演会は現職の加藤紘一内閣官
房長官（テーマは「国際貢献と生活
大国」と栗山尚二次期駐米大使（前



外務次官、同「第3の開国」と外
交」が講師を務め、約400人が
聴講。

この時、毎日新聞を代表して冒頭
あいさつした白根邦男・取締役西部
本社代表は「現代は不透明な時代、
不確実性の時代、海図なき時代と言
われている。このフォーラムは九州・
山口地域の21世紀に向けての指針の
一つとなることを目標としている」と
宣言した。

ちなみに、第2回は同年2月8日
西日本銀行ホール（博多区博多駅前）
で、講師は小沢一郎・元自民党幹事
長と中平立・特命全権大使（日朝
国交正常化交渉担当）。聴衆は約
500人だった。

以下、300回の講演会（4人
以上のパネラーによるシンポジウム3
回、2人で討論する対論4回、3

人で話し合う鼎談1回を含む）に登壇した講師（国会議員、官僚、学識経験者、ジャーナリストら）は延べ490人だが、うち国会議員（1期以上務めた方）は延べ219人で約45%を占める。

その顔ぶれもすごい。前あるいは元総理大臣の肩書で講演した方は海部俊樹、細川護熙、村山富市、中曽根康弘、安倍晋三、森喜朗、野田佳彦の7氏。講演時は国務大臣や政党の要職に就き、後に総理大臣に就任した方も羽田孜、橋本龍太郎、小淵恵三、小泉純一郎、鳩山由紀夫、菅直人、麻生太郎、福田康夫の8氏もおられる。

このほか、第2回（1992年2月）の小沢一郎氏（当時の肩書・元自民党幹事長）、第12回（1993年1月）の河野洋平氏（同・内閣官房長官）、第15回（1993年4月）の後藤田正晴氏（同・副総理兼法務大臣）、第21回（1993年10月）の武村正義氏（同・内閣官房長官）、第33回（1994年10月）の亀井静香氏（同・運輸大臣）、第38回（1995年3月）の梶山静六氏（同・前自民党幹事長）、第41回（1995年6月）の土井たか子氏（衆院議長）、第83回（1998



時期にも第116回（2001年9月）、第124回（2002年5月）、第132回（2003年1月）、第140回（2003年9月）の計4回。テーマはいずれも「秋の政局」「政局の動向と第2次小泉内閣」等で、フォーラム事務局の急な要請に地元・福岡県出身の政治家として協力していただいたものと推察できる。

次いで多いのは、官房長官や自民党幹事長を歴任した前出の加藤紘一氏で10回を数える。現職の内閣官房長官として第1回（1992年1月）で講演したのを皮切りに、第169回（2006年2月、テーマ「新しき日本のかたち」）まで、14年間にわたりフォーラムを支えていただいた。恩人であり、「フォーラムの育ての親」として記憶に留めたい方である。9回講演した方はおらず、8回講演は河野洋平氏（元衆院議長）と石破茂氏（元自民党幹事長）。



第100回は九州・沖縄サミットがテーマ

河野氏は第12回（1993年1月「変革と実行の政治」）に現職の内閣官房長官として初登場。第100回（2000年5月）記念のシンポジウム「九州・沖縄サミットの意義」では、外務大臣として特別講演をしていた。

衆院議長に就任された後も、第151回（2004年8月）、第163回（2005年8月）、第175回（2006年8月）、第187回（2007年8月）の4回、それぞれ「議長として思うこと」と題して、また、議長退任後は第226回（2010年12月）に8回目の登場。「衆院議長を辞めて」最近思うこと」をテーマに国会の現状等について見解を披露してもらった。

石破氏は前防衛庁長官として第157回（2005年2月）が初お目見え。以来、12年間、安全保障や地方創生のプロとして日本政治の大きな転換期には欠かせない論客として度々登場。記念の第300回（2017年9月）では「時代の論点（これからの25年）」を論じていた

だった。

政界以外でも小和田恒・外務事務次官、中内功・ダイエー会長兼社長、小林陽太郎・富士ゼロックス会長、波多野敬雄・元国連大使、岡本行夫・外交評論家、榊原英資・元大蔵省財務官、ピーター・ランダース・米ウォールストリートジャーナル東京支局長ら官界、経済界の重鎮や学識経験者、ジャーナリスト等の多彩な顔触れで毎回、聴講者を魅了した。

次の25年へ、日本はどうかわるのか

フォーラム創設当初からの原則が「一番ホット」な講師の招聘に務めたが、経済環境もバブル崩壊後、失われた20年を迎え、低迷の時期に入る。2008年のリーマンショックは企業経営にも大きな影響を与え、合併、倒産もあり会員の退会も続いた。政界も大きく変わる。政・官界の都合で講演会の日程の決定が遅れることもしばしばだった。2009年の衆院選挙で民主党へ政権交代し、講演が決まっても急な解散や講師の突然の要職就任等で急に来福がキャンセルとなる場合もあった。2012年、

年12月）の神崎武法氏（同・公明党代表）ら当初から自民党及びそれ以外の公党の実力者、大物議員が続々と登場した。

直近の100回を見ても、第212回（2009年10月）の渡部恒三氏（同・民主党最高顧問）、第217回（2010年3月）の山口那津男氏（同・公明党代表）、第228回（2011年2月）の小池百合子氏（同・自民党総務会長）、第285回（2016年3月）の舛添要一氏（同・東京都知事）、第299回（2017年7月）の小野寺五典氏（元防衛大臣）ら政治・政局の要に在る「話題の人」がタイムリーに登場する運営は変わっていない。

最多講演は山崎拓氏

政界で最も講演回数が多いのは、福岡県選出の山崎拓氏（元自民党副総裁）。第67回（1997年8月「橋本（龍太郎）政権の政策課題と展望」）で、現職の自民党政調会長として初登場して以来、第291回（2016年10月「今語る、YKK秘録と安倍外交」）まで計12回もご登壇いただいた。自民党幹事長という要職に就き、多忙を極めていたと思われる

再び自民党政権へ。安倍首相が誕生し、株価上昇、経済回復を掲げた「アベノミクス」が注目を浴びる。フォーラムも20周年を迎え、同年1月、福井俊彦元日銀総裁を招き記念講演を開催、経済回復への国民の期待が高まった。

この5年間、フォーラムも消費税、安保法制から中韓問題、緊迫する北朝鮮動向、そしてトランプ大統領の誕生と、激変する世相の最新の動きをとらえつつ、今年2017年に25周年、講演例会も300回を数えた。リーマンショック後漸減していた会員数も倍増し、また、新春講演会、会員交流会の充実、ミニセミナーの実施、また女性活躍社会へ向け「女性フォーラム」も開催した。

フォーラムも、常に新しい形を模索しながら、5年後の30年、そして半世紀、「日本はどう変わるのか」、会員の皆さんと考える場としていきたい。





九州電力株式会社
代表取締役会長
貫 正義

本フォーラムは、発足以降、九州・山口地区で最も権威のある講演会組織として高い評価を得てくれました。

今日は、少子化の中での東京一極集中が止まらず、地方の過疎化と急速な高齢化が進んでおり、これに如何に対応するかが大きな課題となっています。加えて、国の根幹を支える電力について、原子力再稼働の遅れ、FITによる料金の高騰、さらには発送電分離という未知の世界に急ぎ足で向かっており、北朝鮮問題等、国際情勢の緊迫化と相まって、目が離せない状況が続いております。本フォーラムが、今後とも引き続き絶えざる活動をいただくよう期待しております。



九州旅客鉄道株式会社
相談役
石原 進

毎日・世論フォーラム25周年おめでとうございます。この間、日本は大きな変化がありました。バブル崩壊と長期にわたる経済停滞、中国の台頭と世界のパワーバランスの変化、急速な高齢社会化、財政の悪化、北朝鮮の核開発など、難問山積です。こうした中、政治の役割はますます重要となりますが、国民もポピュリズムに惑わされず、自助の精神が求められます。この25年間で政官学約5000人の講師、特に政治における時のリーダーの殆どを招聘したフォーラム事務局のご尽力に感謝します。そして今後も、当フォーラムが多くの人々の啓発に繋がることを期待します。



株式会社九電工
代表取締役会長
藤永 憲一

毎日・世論フォーラムの25周年、ならびに300回例会の開催、誠にありがとうございます。このフォーラムでは、毎回、豪華な講師にご講演いただき、参加を楽しみにしております。また、会員の交流や情報交換の場として、懇親会を開催していただき、会員の方々との親睦を深め、人的ネットワークの構築に結びついているものと感じています。これもひとえに、毎日・世論フォーラム事務局の方のご尽力の賜物であり、永きに亘る運営に對しまして、お礼申し上げます。これから九州・山口の成長に向けて、毎日・世論フォーラムが発展されますことを祈念いたします。



株式会社福岡銀行 代表取締役頭取
株式会社くまがいサンイングループ取締役社長
柴戸 隆成

このたび、発足25周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。21世紀の九州・山口のあるべき姿を追求し、地域の発展に寄与・貢献するとの目的で、毎月1回、延べ300回に亘り、その時々話題の方々を福岡に招かれ、フォーラムを続けられることは、並々ならぬ努力の賜物と深く敬意を表します。今年はおかフィナンシャルグループが10周年、福岡銀行も140周年と節目の年にあたり、私どもも共に地域の発展に貢献していきたいと考えております。末筆ながら、毎日・世論フォーラムの会員の皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げます。



株式会社ふくや
代表取締役会長
川原 正孝

世論フォーラム25年、例会300回を心よりお祝い申し上げます。昭和から平成へと時代は大きく変わりました。当社は今年創業70年を迎え、激動の戦後の昭和から平成へと地域とともに歩んで参りました。少子高齢化、地球環境の変化、緊迫する国際情勢、身近で切実な問題でもあり、フォーラムは時代を映す講師の方を迎え、タイムリーなテーマでの講演に毎回興味深く拝聴しています。弊社も次の100周年に向けて、フォーラムの設立目的である「九州・山口地域の発展」に寄与、貢献していきたいと思っております。



株式会社西日本シティ銀行
代表取締役会長
久保田 勇夫

毎日・世論フォーラム発足25周年、おめでとうございます。このフォーラムは、中央の政策決定者や内外に格別の影響力を持つオピニオンリーダーにタイミング良く福岡の地に来ていただいて直接話をうかがえる大変貴重な場であり、私も事情の許す限り、出席することになっております。

又、この機会は、われわれ地方の意見を直接伝えうる大事なチャネルでもあります。水害、地震といったこの地域に係わる事柄だけでなく、ややもすれば容易な方向に傾きがちな国の政策に対する地方の意見を中央に伝える場としての機能も大いに期待しているところであります。



西部ガス株式会社
代表取締役会長
田中 優次

毎日・世論フォーラムが発足から25周年を迎えられたとのこと、心からお慶び申し上げます。その間、開催は300回を超え、非常に影響力を持った数多くのオピニオンリーダーをゲストに迎えてこられました。これほど長く続くには、毎日新聞の皆さまの並々ならぬご苦勞があったものと拝察致します。

福岡に居ながら、しかもタイムリーな中央の話が聞けるフォーラムは、地域にとって大変貴重な存在です。これから30年、50年と末長く続きますことをご祈念申し上げます。



西日本鉄道株式会社
代表取締役社長執行役員
倉富 純男

毎日・世論フォーラム25周年を心からお祝い申し上げます。毎月、通算300回以上にも亘り、著名な講師をお招きされる事務局の皆様のご尽力には、頭が下がる思いであります。さて、地方分権が叫ばれて久しい所ですが、まさに、日本が元氣であるためには地方の元氣が欠かせません。

私たち地方企業も、各々が的確な情報収集を行い、知恵を絞っていく必要があります。貴フォーラムで、ICTや防衛等々、国の中枢で活躍されている方々の生のお声を拝聴できるのは、大変貴重な機会であります。今後の開催も楽しみにしております。



総合メディカル株式会社
代表取締役社長執行役員
坂本 賢治

25周年、そして300回例会の開催を心よりお慶び申し上げます。このフォーラムは講演と併せデジタルニュースなどの演出が斬新で講師人選もタイムリーで流石と思っております。また、会員の皆様との交流は私にとって感性を磨く研鑽の場でもあり、毎回参加を楽しみにしております。

当社は2018年おかげさまで創業40周年を迎えます。日々刻々と変化する国内外の情勢を捉えながら「毎日・世論フォーラム」とともに未来へ向けて歩んでいきたいと思っております。



タマホーム株式会社
代表取締役会長兼社長CEO
玉木 康裕

毎日フォーラムの25周年を心からお祝い申し上げます。長きにわたり政界のリーダーを福岡に招き、時局に沿った講演内容は時としてタイムリーなもので、毎回楽しみに参加しております。

また、フォーラム会員社の皆様とも交流を図れる場として活用させていただいております。さて、当社は1998年に設立、四半世紀に向けて邁進中です。福岡から大阪、東京へと基盤を移しましたが、常に九州から情報発信を心がけています。毎日フォーラムとともに九州を代表する企業を目指していきたいと思っております。



第295回
毎日・世論
フォーラム

テーマ

トランプ大統領の誕生と日米経済のゆくえ

25周年記念講演会

会場：ホテルオークラ福岡

開催日：平成29年2月10日

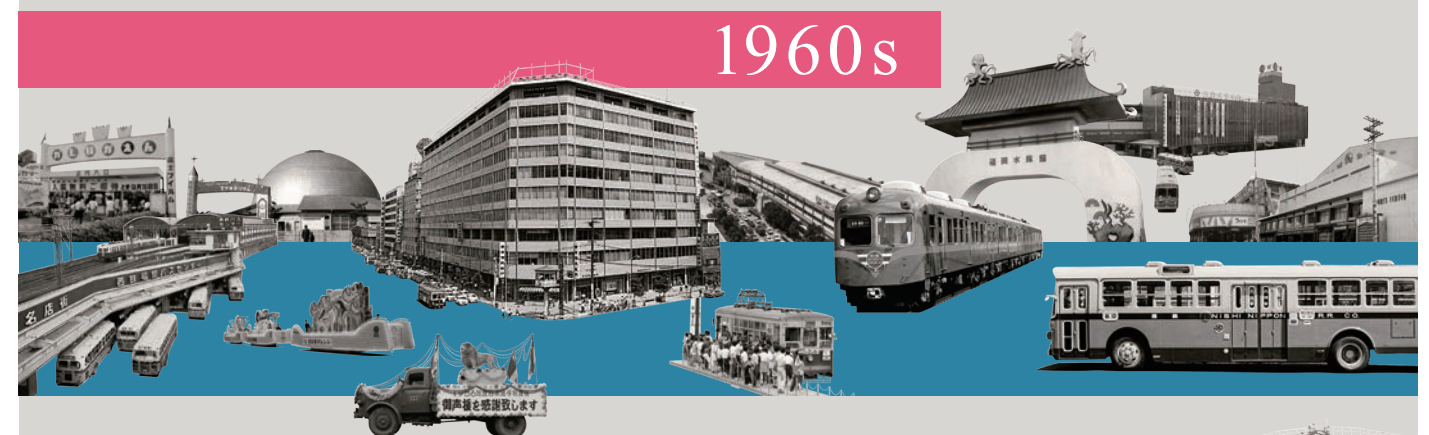
ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長

ピーター・ランダース氏

毎日・世論フォーラム・新春講演会は、2月10日、米ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）東京支局長のピーター・ランダース氏を迎え、「トランプ大統領の誕生と日米経済のゆくえ」と題して講演、会員250人が参加した。ランダース氏は「米国は政策が一貫しない状態がしばらく続く。G7（主要7カ国）で一番安定した日本が前面に出てリードする時代かもしれない」と述べ、国際社会で日本の役割が増していると指摘した。

トランプ氏については「イメージ重視のセールスマンで非を認めない性格」と分析。ワシントンで10日午後（日本時間11日未明）に行われる日米首脳会談を前に「批判に敏感な人なのでいらだたせず、顔を立てるのが戦略だ」と安倍晋三首相に「助言」した。

これからも、たくさんの夢や笑顔があふれるまちを。



西鉄グループは、創業以来ずっと、まちづくりに取り組んできました。
バスが走る道路のそばに、電車が走る線路のそばに、
誰もが笑顔で、心地よく、楽しく暮らせるまちを。
「このまちをずっとずっと、より良くしたい」。
その思いをこれからも変わらずに持ち続けていきます。

まちに、夢を描こう。Nishitetsu Group



ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長
ピーター・ランダース氏
Peter Landers

1969年、米ニューヨーク生まれ。エール大学卒（専攻・東アジア研究）。AP通信東京支局記者、ファー・イースタン・エコノミックレビュー記者などを経て、1999年、ウォール・ストリート・ジャーナル入社。編集者としてニューヨーク支局、ワシントンD. C. 支局などで務め、2014年2月から現職。日本語に堪能で、TBS「新・情報7days ニュース・キャスター」ゲストコメンテーターなど、番組出演も多数。

日米首脳会談（日本時間2月11日未明）に臨むに当たり、安倍晋三首相は良く準備していると思う。大統領の性格についても勉強会を何度も開き、どう交渉すれば良いか考えている。批判に非常に敏感な人なので批判せず、顔を立てるのが戦略だろう。もう一つは、具体的な中身はともかく「40兆円ぐらいの新産業を日米でつくる」など数字を提案すること。トランプさんが納得でき、ツイートしやすい材料を持っておく。他には、中国に対する日本の役割を強調すること。トランプさんと中国の習近平主席が電話会談して「二つの中

日米首脳会談と中国の動き

国」を確認したので、米中関係が少し改善に向かっているかもしれないが、台湾や貿易の問題を巡りこれからも緊張する可能性が高く、日本はそれを利用できる。貿易赤字も対中国が対日本の何倍もあり、今回の首脳会談で、日米関係の強化で中国と対抗するという、元々の日本の戦略にトランプさんが乗る可能性がでてきた。

物議を醸した入国禁止令

国内では、イスラム教徒が過半数を占める7カ国からの入国を一時的に禁止する大統領令が発令され、連邦地裁が一時的差し止めの仮処分を決定した。それについてトランプさんは



ジョン・マーシャル
アメリカ合衆国第4代 連邦最高裁判所長官

日本が前面に出てリードを 国際社会での日本の役割

トランプ大統領はどんな人物か？

今日はアメリカ人講師が来ているので、新しい大統領が何を考えているのか納得いく説明を求めていると思う。何とかトランプ流を解説しながら、日米関係がどう発展していくか、トランプ大統領はどんな人物なのか、自分なりに説明してみたい。

トランプさんは非常にイメージを大事にする人だ。日本では「不動産王」と紹介されていたが、アメリカではテレビ番組を通じて全国的な知名度を得た。新聞よりもテレビが好きで、テレビで見たことに違和感を感じるとツイッターで反論することが非常に多い。もう一つはセールスマンの側面。

一時期ある会社と「トランプステーク」を作り、「世界で一番おいしいステーキだ」と宣伝していたように、名前を売ることがトランプさんの経済人としての事業の中心だ。よく「製造業を大事にし、古き良きアメリカ



「『いわゆる裁判官』の決定に納得がいかない」とツイートした。この発言からは「裁判官と言うが、果たして裁判官なのか」との思いが読み取れる。これはアメリカの近代史で初めてのことだ。ジョン・マーシャル第4代連邦最高裁判官は、法が合憲かを決めるのが司法の一番大事な仕事と定めて「最高裁が駄目という法律は通らない」と宣言し、200年以上その原則が守られてきた。トランプさんが裁判所の役割に異論を唱えるのはおもしろいが前代未聞。仮に最高裁が大統領令を無効にすると決めれば従わざるを得ないと思うが、前代未聞の大統領令なので不安がある。

アメリカに頼らない時代へ

外交でも米中関係、米ロ関係、イランとの関係もこれまでの原則や政策がひっくり返される可能性が高い。



を復活させる」と言うけれども、実際は何かモノを作るとかよりも、名前を売り、利益を得る事業だった。一方で、嫌なことを言われた、反抗されたなどと思った時は非常に反発してやり返す。非も認めない。大統領選の得票数では約300万票差で負けているが、それを指摘されると非常に嫌がる。「裏で数百万人が違法投票をした」など、いろいろな理由をつけて得票数で負けたことを認めない。大統領になったから今更問題にする必要はまったくないのに、問題にしているところに性格が現れている。

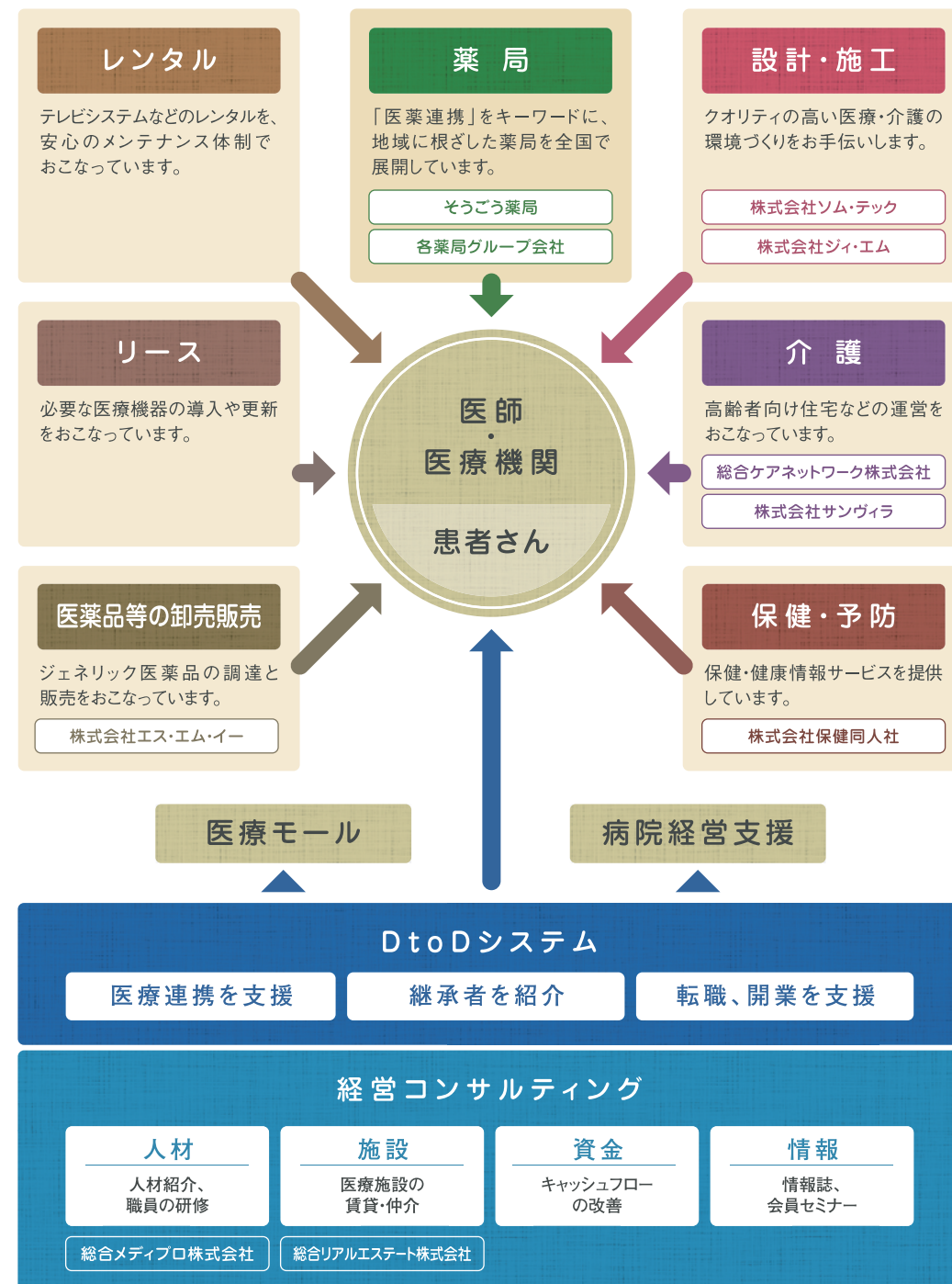
勉強不足で、政治、軍事経験がない初の大統領だし、顧問にもそんなに外交経験のある人はいない。政策に一貫性がない状態がしばらくは続く。次のドイツ総選挙でメルケル首相が負けた場合は、安倍首相がG7（主要7カ国）で最年長になる。日本経済は少しずつ復活している。内政も非常に安定し、一貫した政策が期待できるので、前面に出ざるを得ない可能性がある。戦後、日本の首相は常に日米関係を大事にし、今日も安倍首相はアメリカの顔色をうかがっているが、アメリカを頼らず、自分でリードする時代が少しずつ来ているかもしれない。



医療の未来をつなげたい。

—— 私たちには、つなぐ、支える、ノウハウがあります。 ——

医業経営のトータルサポート



よい医療は、よい経営から
総合メディカル株式会社
www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

本 社/福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル16階
 営業ネットワーク/札幌・盛岡・仙台・北関東・埼玉・東京・横浜・北陸・松本・
 静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・山口・高松・松山・高知・北九州・
 福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄 全国28か所
 資本金/35億1300万円 従業員数/5,750名(2017年11月1日現在)

そうごう薬局など 全国680店舗以上

毎日・世論フォーラムのあゆみ

1992年 1月 「毎日・世論フォーラム」創設

第1回/加藤紘一・内閣官房長官「国際貢献と生活大国」
 栗山尚一・次期駐米大使「『第3の開国』と外交」 会場:ホテルニューオータニ博多



1992年11月

第10回/景気シンポジウム「日本経済の現状と今後の政策の在り方」
 [パネラー]小島正興・セコム副会長、島本禮一・日本総研理事長、
 児玉幸治・日本興業銀行顧問、佃亮二・福岡銀行頭取
 会場:ホテル日航福岡



2000年 5月 100回記念シンポジウム「九州・沖縄サミット」の意義

[特別講演]河野洋平・外務大臣
 [パネラー]沖縄・稲嶺、宮崎・松形、福岡・麻生各知事、毎日新聞・
 岸井成格(コーディネーター) 高信彦・ジャーナリスト
 会場:ホテルニューオータニ博多



2006年12月 15周年記念シンポジウム 「アジアにおける日本の役割—過去、現在、そして未来を語る」

(インド)スレーシュ・ブラブ元電力大臣・(タイ)タノン・ビダヤ前財務大臣
 会場:アクロス福岡

2012年 1月 20周年記念講演会「日本経済と世界経済の行方」

日本銀行元総裁 福井俊彦・キャノングローバル戦略研究所理事長
 同 毎日新聞創刊140周年・世論フォーラム20周年記念感謝のタベ
 会場:ソラリア西鉄ホテル



2017年 2月 25周年記念講演「トランプ大統領の誕生と日米経済のゆくえ」

ピーター・ランダース・米ウォールストリートジャーナル東京支局長
 同 25周年記念講演会・記念懇親会 会場:ホテルオークラ福岡

2017年 9月 300回記念例会「時代の論点」~これからの25年~

石破 茂・自民党元幹事長 山田孝男・毎日新聞特別編集委員
 会場:ホテルニューオータニ博多



ホテル オークラ 福岡

お客様への「親切と和」の精神に根ざしたおもてなしのところで
 世界中のお客様に感動のご滞在をお届けします。

第300回 毎日・世論フォーラム

自民党元幹事長

講師

石破 茂氏

開催日：平成29年9月13日

会場：ホテルニューオータニ博多

聞き手：毎日新聞特別編集委員 山田孝男氏

テーマ：「時代の論点〜これからの25年〜」

毎日・世論フォーラムは1992年1月に始まり、ほぼ毎月、政財官界の要人らを招いて講演会を開いてきた。今年創設25周年を迎え、今回の講演例会で300回を数えた。300回の記念例会として、自民党の石破茂元幹事長を招き、「時代の論点」をテーマに、安倍政権の下、トランプ米大統領、北朝鮮情勢など国内外の課題について講演、会員200人が熱心に聞き入った。また、講演後半は毎日新聞の山田孝男特別編集委員との対談形式で論議を深めた。



「核の傘、実効性確認を」石破氏が強調

石破氏はテレビ朝日の6日の番組で非核三原則のうち核兵器を「持ち込ませず」に疑問を呈したことについて、「作らず、持たずはいいが、持ち込ませずは本当にいいのかを議論しようと言った」と説明。「米国の核の傘の有効性、実効性を常に確認しておくのが政府の責任だ」と強調した。また、憲法9条第1項と第2項を維持しつつ自衛隊の存在を明記する安倍晋三首相の提案に「国家の独立を守るために軍隊は必要」。

国権の発動たる戦争とは何か、戦力とは何かをきちんと定義しないで、この話をしてはいけない」と反論。第2項の見直しが必要という認識を重ねて示した。

対談では、山田編集委員の「自民

党石破派の所属議員は20人で、首相の出身派閥の細田派と大きな開きがあるが」との問いに、石破氏は「べ



ンチャー企業だ。それなりの苦労はあるが、そういうものが世の中を変えらるという気概を持つていきたい」と「ポスト安倍」に意欲をみせた。

継続可能性のある国家をめざす

私はこの国をサステイナブルでインディペンデントな国にしたいと思っている。持続可能性ある独立した国家ということ。来年は明治150年。明治維新以来50年に一回新しい国を作ってきた。第2次世界大戦が終わって50年、次の50年は戦争と敗戦、経済復興の50年。GNPが世界第2位になっ

たところで100年。来年150年。直近の50年間、我々は新しい国を作ろうとしてきただろうか。ともすれば、遺産を食い、次の時代につけをのこしていないか。

これから来る50年どうするかが課題だ。地方創生大臣をやった。このままの出生死亡の数だと西暦2100年、日本人は5200万人。300年で423万人。たった83年で日本人は5200万人に減る。若い人が少なくてシニアが増える。どうやって財政を維持するのか。社保を維持するのか。

国家は領土と国民と統治機構でなりたっている。国家主権は領土、国民、統治機構の3つだ。島一つ失う国はやがて領土すべてを失う。国民1人の命を守れない国はすべての国民を失う。拉致問題とはそういうことだ。国家主権が侵害されている。この国は本当に主権独立国家なのかが問われている。今の憲法は占領下においてできたものだ。国家主権を持っていない時の憲法だ。独立を守る軍隊の規定がなかったのは当然のこと。どんな



イデオロギーでも国家の独立を守るために軍隊は必要だ。国家が崩壊したら、基本的人権も言論の自由も信教の自由も保障されない。

前文、9条。「(国際平和を)誠実に希求する」まではいい。国権の発動たる戦争とは何か。戦力とは何か。そういう定義をきちんとしないで、この話をしてはいけない。

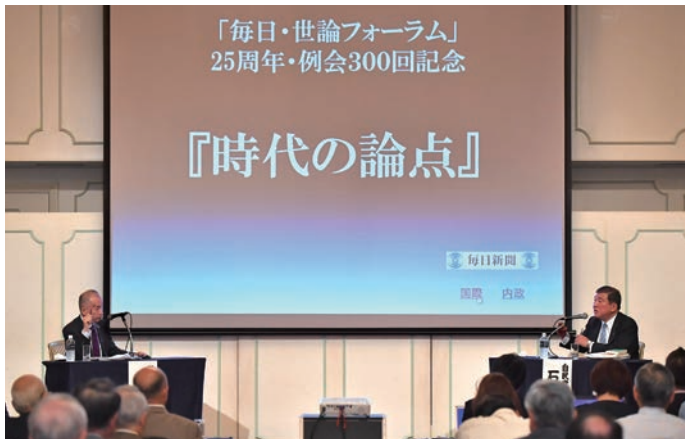
国家を変えるのは地方

集团的自衛権でアメリカとともに戦争をしようといっているのではない。日本は集团的自衛権がないゆえに、アメリカの基地を義務として置かなければならない。基地は必要だが、義務として有無を言わずにおくの

でいいのか。この基地は縮小していい、日本の基地で代替するという権利がない。これが本当の独立国家か。

財政、社保、本当にサステイナブルか。50年先の日本に責任を持たないといけない。今それを議論しないでどうする。答えを出さないでどうする。次の時代に対する責務である。

いつの時代も国が国を変えるのではない。地方だ。国民に政治を信じているという人が少ない。じゃあ、政治は国民を信じているか。これを言えば票が減るといつて、本当のことを語らないのは政治家ではない。次の時代



に責任を持ちたいと思っている。独立した国で持続可能な国である。そういう問題を考え、答えを出す。皆様方にご議論いただいて答えを出す。

ミサイル迎撃の精度は？

Q 安保の専門家の石破さんに聞きたい。今は戦後最大の国難にさしかかっていると思う。ミサイルは迎撃できるのか。命中精度はどうかの

A 精度はあがっている。打ち上げたときの角度と炎の強さとスピードで計算すればどういう弧を描いてどこに落ちるかが出る。何時何分何秒にどこに打てば当たると計算上必ず出る。前提条件さえ間違え



自民党元幹事長
石破 茂氏

1957年2月、鳥取県出身の60歳。79年3月、慶應義塾大学法学部卒業。同年4月、三井銀行（現三井住友銀行）に入社。86年の衆議院総選挙。鳥取県区（現在は1区）から自民党公認で出馬、初当選した。以来、当選10回。12年9月、自民党総裁選挙に出馬。決選投票で安倍晋三現首相に19票差で敗れたが、党員票で過半数を集め自民党内での存在感を高めた。安倍新総裁の下で幹事長。14年9月の第2次安倍改造内閣では、国務大臣（地方創生・国家戦略特別区域担当）を務めた。「ポスト安倍」の次期自民党総裁有力候補と目される中、政権課題に対し踏み込んだ発言と石破派の動きに注目が集まる。

非核三原則に見直しは？

Q 核武装について。非核三原則見直しに言及しているが。

A 議論もせずは変だ。我が国政府は核を持つことは憲法に違反するものではないという答弁を日本政府はずっとしている。作って持った

くとも我々は考えられるありとあらゆるケースを常に想起しなければならない。どういう法律でどの装備使つてどのオペレーションをやるか、それは常に頭を使って訓練しておかないと大変なことになる。



A を読んだ。誤算や過信が出てきそうな政権だと思うが。

歴史に対する教養がトランプにどれだけあるか知らない。少な



トランプ大統領をどう見る？

Q トランプはビジネスマン。ディールというが、ディールできるリアリストか、どうしようもないのか。

A 非常にビジネスマンとして有能な人だと思う。

Q キューバ危機になぞらえる人がいる。ケネディはいかに戦争が情報



毎日新聞特別編集委員
山田孝男氏

1952年3月東京都生まれ、62歳。早稲田大学卒。1975年毎日新聞社入社。長崎支局を振り出しに、東京本社社会部などを経て84年から政治部。福島支局長、政治部長、編集局長、編集局総務を経て、2007年10月から政治部専門編集委員、同年12月から月曜朝刊コラム「風知草」を連載。2014年4月から政治部特別編集委員。著書に小泉元首相の独占インタビューをまとめた『小泉純一郎の「原発ゼロ」』



ホテルニューオータニ博多
開業 | アニバーサリー
40周年 | ウエディングプラン

2018年9月に迎える開業40周年を記念したアニバーサリープラン。大切な一日を、特別なおもてなしでプロデュースいたします。

The New Otani

永遠の愛を、ここで誓う

ホテルニューオータニ博多 伝統のウエディング

ホテルニューオータニ博多
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-2
TEL.(092)715-2003
(プライダル直通)







Q 朝鮮が核を持った。アメリカが盤石か。守ってくれるのか。

A トランプは歴代大統領と違う価値判断をするのではないかということ。我々は認識して置いた方がいいと思う。就任演説を読んでいると、歴代大統領が言った自由、人権、民主主義がほとんどでてこない。損か得か。だとすれば、日本を守った方が得だよという状況をどうやってつくるかということに我々は努力しな

アメリカは日本を守ってくれるか？

らNPT違反。だけど、持ち込ませずっていうのは本当にいいのか。ドゴールの言葉に同盟はともに戦うことがあっても決して運命はともにしないものだという言葉がある。だから、アメリカがなんと言おうとフランスは核は持った。どういう道があるのか。

答えとしてロジカルに出していかないと国民に対する責務を果たすことにならない。



毎日・世論フォーラム 2017 会員交流会

開催日:平成29年8月30日 会場:ホテル日航福岡
講師:元ラグビー日本代表 林 敏之氏 テーマ:「ラグビー感動!」

恒例の会員交流会は8月30日、ホテル日航福岡であり、元ラグビー日本代表の林敏之さん(57)が、2019年のラグビーワールドカップ日本大会を前に、「ラグビー感動!」をテーマに講演、会員180人が熱い感動に包まれた。講演に先立ち丸山昌宏・毎日新聞社長が「世論フォーラムは今年25周年、次回例会で300回。さらに濃い内容となるよう努めたい」とあいさつ。石原進・JR九州相談役の乾杯で懇親会も開かれた。

例会は中央のオピニオンリーダーや、政界、閣僚経験者を招く講演例会をほぼ毎月開催しているが、会員交流会は、毎日・世論フォーラムの会員社120社(2017年8月現在)とその会員紹介者による、親睦と交流を図る目的に毎年8月に開催。通常例会とは違う幅広いテーマでのゲストスピーカーの講演が好評だ。また、懇親会では会員企業のPRを兼ねた大抽選会があり、多彩かつ豪華な賞品が当たる度に大きな歓声が沸いた。(林さんの講演要旨は次のページ)



+rkb



ペルーのピラミッドを元に
7つの鍵の謎を解く



田中みずき
(RKBアナウンサー)

吉村作治
(東日本国際大学学長)

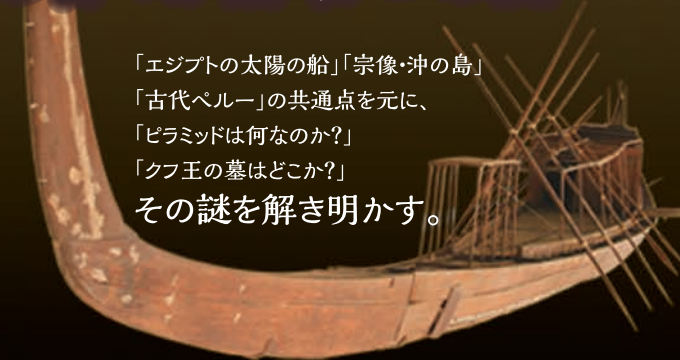
エジプト大ピラミッド 隠された王墓と財宝

RKB製作・著作

～日本と古代ペルーの神々が解く7つの鍵～

12.10[日]
ごぞ3:30放送
(TBS系列全国ネット)

「エジプトの太陽の船」「宗像・沖の島」
「古代ペルー」の共通点を元に、
「ピラミッドは何なのか?」
「クフ王の墓はどこか?」
その謎を解き明かす。



林敏之さん招き会員交流会

ラグビーは人生、感動が力を生む

―ラグビーワールドカップの 日本開催に期待

林さんは高校日本代表に選ばれ海外遠征した最終日、監督に「外国人に通用していたのはお前だけ。将来、後を継いでくれ」と告げられ涙したエピソードを当時の日記を手に披露。その言葉を胸に仲間と涙しながら、神戸製鋼で日本選手権7連覇に至った体験を語り「感動が力を生む。湧き上がるものあつてこそその人生」と訴えた。ワールドカップが始まったのは1987年。当時は、世界一を決める大会なんてできるのかという感じだった。アマチュアイズムの強い頃で、私はこの時キャプテンをやらしてもらったが、今とラグビーの環境はだいぶ違った。

今は選手30名、スタッフ20名で50人くらいで遠征に行くが、当時は選手25名、スタッフ団長以下4人。山梨の公民館に毛のはえたようなところで合宿した。エディー・ジョンスは140日合宿を張った。そして2015年のイングランドワールドカップ。日



えた。分らない気はしなかったが腹が立った。「だから勝てないんだ」と。本当に強いのは新日鉄釜石だった。「なぜ、釜石に勝ちたいといってくれないんですか。関西で勝ちたいんですか、だからラグビーやつてるんですか。日本一になりたくないんですか、だからここにきたんですよ。」そう話すと「そうじゃあ日本一になろうか」と言ってくれた。

全国大会で初優勝し表彰式があつてキャプテンがやって来て、私の前に来た。「林さん賞状もらつてきてや」「なにゆうてんねん」「林さんしかないですよ、みんな行つてもらうぞ」と言つて声かけてくれたんです。もうボロボロ涙が出た。泣きながら賞状をとらせてもらった。いい思い出です。ラグビー人生の中でもハイライトと思う。



好きな言葉「感即動」

大好きな言葉は「感即動」。中国の古典にでてくる。即という字が抜けたら感動。感じるから即ち動く。ラグビーはボールを託し託されるスポーツ。人間は不完全な生き物だがそれを信じるのは、理屈を超えた世界。託されたものは見えない。見えないものは大事だなと思う。

ところが今は乾いた時代になった。恵まれているけど、生きていること乾いていないか、命乾いていないか。命が乾いたら、命が軽くなる。自殺したり、殺したり。適度な湿り気がいる。どこから湧いてくるのか。それは湧き上がるものからしか出てこない。



涙。理性的に「こうしなきゃいけない」じゃない。最高の意味や価値を見いだしたら、こうしたいと、湧き上がるものがみつかる。その時初めて自由になる。「自由自在」平尾が好きな言葉だった。湧き上がったときに自分に自分が戻ってくる。

2019年 ―どんな物語が生まれるか

引退して湧き上がるものを伝えたいと思つて「感性フォーラム」というのをやっている。ラグビーと行動学、東洋哲学を融合したような研修。それからラグビー寺子屋、ヒーローズカップも。

ワンフオーオール、オールフオーワンすばらしい言葉と思う。これをラグ



元ラグビー日本代表
林 敏之氏

徳島県出身。日本代表キャップは38。愛称は「ダイマル」及び「壊し屋」。ロックの選手としては世界的には小型の部類に入るが、恐れを知らない当たりの強さを持ち、相手チームから恐れられる存在であったが、プレーのクリーンさは際立っていた。また、口数は少ないが、勇猛果敢なプレーで背中でチームを引っ張る統率力は、類稀であった。同志社大学経済学部卒業。神戸製鋼に入団、チームの7連覇に貢献した。2005年より同志社大学ラグビー部の理事。現在は神鋼ヒューマン・クリエイティブ所属。特定非営利活動法人ヒーローズの理事長。

本は後半弱いというすり込みがあつたが後半走り勝った。練習で追い込んであの成績を残した。それ以上の成績が次の日本開催で期待される。簡単ではないが是非やってほしい。

練習は限界を超えて大きくなる

人間には限界があるといわれる。生理的限界と心理的限界。私の力を100とすると全部出せない。100出し尽くしたら死んでしまう、人間は制限をかける。試合に臨んだとき勝つのは出せるところが大きい方が勝つ。

どうやったら勝てるのか。あたりまえだが練習。自分を追い込まないといけない。毎日ちよつとでも心理的限界をこえるような練習をする。それを続けることで全体の力が伸びていく、トータルで大きくなったときこのチームは勝てる。私は大学1年の時、岡先生にそう教えてもらった。

日本一ラグビー人生のハイライト

神戸製鋼に入社した当時、チームはそんなに強くなかった。1年目の全国大会。新日鉄釜石にボロ負けした。2年目、ミーティングで先輩に質問した。「みんななんでラグビーやつてるんですか。」するとある人は「せやな、一回くらいトヨタに勝ちたいな」と答

ビーがひつついているのが日本。世界であまり言わない。フオーオール。人のことを考えるなら、自分を公共化していく。人のために何かしようと思ふなら感謝の気持ちを感じないと何かしようと思えない。人のそういうものを引き出した先に、和の世界がある、すばらしいノースайдがある。ワンフオーオール、オールフオーワンひとことでしたら和。日本だからこそ言える。そんな深い哲学を掲げたラグビー。もつと誇りを持ちたい。2019年ワールドカップもいろんな物語が生まれると思う。是非みなさんで盛り上げていただけたらと思う。



家づくりから得られる 人生の豊かさ。

お客さまのために私たちができること、それは高品質の住宅を適正価格でご提供し、生活にゆとりと豊かさをお届けすることです。

ゆとりを持つことで、世界の芸術や文化に数多く触れ知的な刺激を受ける。
そのことは、私たち日本人の感性や教養をはぐくみ、心豊かなより良い人生を送る一助となると私たちは考えます。

私たちがさまざまな催しをサポートするのもそんな思いがあるからです。

家とおしてお客さまにゆとりと豊かさを届け、お届けすることにより、社会に貢献する。それが私たちの基本理念です。

活発な会員交流会

会員交流会は、毎年8月に開催、講演例会とは違ったユニークなテーマでゲストを招いた「ゲストスピーチ」が好評だ。
さらに会員からの協賛賞品をはじめ盛りだくさんの賞品を揃えた「お楽しみ抽選会」は人気のコーナー。
毎回多くの会員が参加、会員同士の交流や情報交換に一役買っている。
スピーカーには、2012年小川 洋・福岡県知事「幸福度日本一の福岡県をめざして」、
2013年十時忠秀・佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長「心と体に優しい重粒子線がん治療」、
2014年は青柳俊彦・JR九州社長「ななつ星が九州を変える」、
2015年は麻生泰・九州経済連合会会長「九州から日本を動かす」、
去年はジャーナリストの鈴木哲夫さんが「小池劇場の舞台裏と安倍政権の行方」をテーマにスピーチした。



「大安心の家」シリーズ
総合カタログを
無料で進呈します。

マイホームは人生で一番高い買物。でも構造、設備…よくわからない事が盛りだくさん。そんなお客さまの疑問を当カタログでわかりやすく解説します。お申し込み方法は以下の2通りよりお選びください。

①お電話での資料請求（ご案内時間午前9時～午後8時）
☎0120-923-000

②資料請求フォームよりお申し込み（トップ頁より）
www.tamahome.jp

ながく快適に暮らすために 長期優良住宅対応

お客さまの希望をかなえる 自由設計・注文住宅

IHクッキングヒーターを標準採用 オール電化仕様

大安心の家

※「大安心の家」は長期優良住宅対応商品（5・6・7地域）です。長期優良住宅の認定を受ける場合は「長期優良住宅建築等計画」を作成し、申請後、認定されてからの着工となります。長期優良住宅の申請にあたっては別途申請費用が必要となります。住宅性能表示制度の耐震等級【等級2】以上、断熱性能等級【等級4】の設計が必要となります。プランおよび諸条件によっては対応できない場合があります。掲載のプランは積雪1m未満の地域を対象としています（屋根材および屋根形状により対応積雪量が増える場合があります）。積雪量、離島、沖縄県など、対応地域によっては建築できない諸条件があります。掲載の画像はイメージを含むものであり、対応地域により外観形状、サッシ形状および寸法等が変更となる場合があります。構造・設備等の仕様は予告なく変更となる場合があります。

タマホーム株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目22-9 タマホーム本社ビル（品川駅前）

〔建設業許可番号〕国土交通大臣許可（特-25）第19013号、（般-25）第19013号 〔宅建業免許番号〕国土交通大臣（3）第6857号

タマホーム

GOOD DESIGN
AWARD 2013

タマストラクチャーは、グッドデザイン賞、ウッドデザイン賞を受賞しました。

ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015

10 かげさまで
累計お引渡し棟数
10万棟

1998年6月3日から2016年11月30日の期間で、全商品ラインナップの累計お引渡し棟数が10万棟に達しました（当社調べ）。



やすらぎの空間で 心づくしのひとときを。

ホテル日航福岡

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-18-25 tel.092-482-1111（直通）
JR博多シティ（博多駅）から徒歩3分 https://www.hotelnikko-fukuoka.com/

ホテル日航福岡

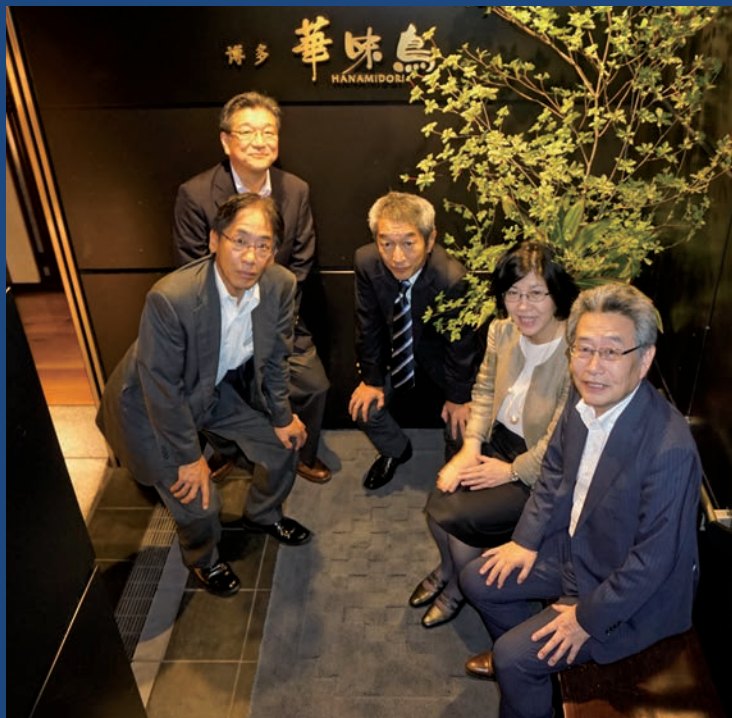
検索



フォーラム25年を振り返る 政治はどう変動したか！

1992年1月に始まった「毎日・世論フォーラム」の最大の特長は大物かつ個性豊かな政治家を招いての時局講演会。毎日新聞東京本社で講師招聘のコーディネーターを務めてきた政治部長経験者5人に、毎日・世論フォーラム25年の思い出を振り返りながら、戦後日本の政党政治やエピソード、政治が抱える今後の課題について語ってもらった。

（司会は現職の佐藤千矢子・毎日新聞政治部長、文中敬称略）



※この座談会は9月5日に収録しました。その後、同月28日臨時国会の冒頭で安倍総理が衆院解散に打って出て、10月10日公示、同22日投開票となりました。衆院解散の時期に関するベテラン政治記者の議論を振り返っても政治は「一寸先は闇」です。

「予定調和」から「激動」の政治へ
1992年（平成4年）。時代は昭和から平成へと移りました。まずは戦後長く政党政治とその中心だった自民党の果たした役割についてのご意見を聞かせてください。



小菅 平成時代の政治も総括が必要な時期に来ている。昭和の自民党は戦後の豊かさを目指し、西側陣営として共産主義と対峙してきた。平成になりバブル、冷戦が崩壊し、自民党は迷走を始める。その間、非自民の細川政権、民主政権が生まれ、自民党は明確なビジョンを失ったようだ。それでも非自民の1年、民主政権の3年以外は自民党が担った。なぜか。「国民の期待に応えることが出来なかった」民主政権の負の遺産で、安倍政権が延命しているのではないか。

古賀 戦後政治は自民党の歴史。戦前の日本の政党政治は政友会がベース。町や村の有力者、素封家の人徳で生まれたルーツの伝統が自民にはあると思う。戦後は高度成長下で「パイの分配政党」として機能した。特に田中派の全盛は「総合病院」と言われるほど、あらゆる業種に族議員がいて「自民に頼めば解決する」という時代。だが、90年代から平成にかけて時代が大きく変わる。小選挙区への選挙制度改革、冷戦崩壊、グローバル社会で日本の経済が相対的に弱くなり、分配のパイが減った。（分配が）出来たからこそ強かった自民が、民主党に圧迫されて野党へ転落する。その教訓から「選挙に強くな

るため」自民党は右傾化へ向かう。

中国の台頭を利用し国内世論にアピールした。それが今の安倍政権ではないか。同じ自民党でも「経世会」時代と「安倍政権」は全く違う自民党と考えるべきだ。

前田 戦後、政党と言えば自民党だった。日本の村社会を考えると、みんなの意見を聞き、長老的な話の中で決めるのが日本の歴史、文化。主義主張でなく、どこへ着地するかを探る、それが日本の政党のようだ。共産党や社会党は終始、政権の批判勢力で終わっている。「分配の政治」「箱物的な要求の調整、着地」が自民の政治だ。バブル前から少子化が顕在、分配がない社会になり、負担をどうするかで自民党は機能不全に陥ったのではないか。今、安倍政権は経済的にも安定しているようだが、1000兆円の国の借金をどうするのか。次



の世代へどうつながが出来ていない。今の日本の政治の悪いところだ。

末次 毎日世論フォーラムのスタートが1992年、翌年自民党が下野。まさに「予定調和」の政治から激動を始めた。そうした時期に世論フォーラムは政治の動きをビビッドにキャッチしてきた歴史を重ねてきたと思う。

一昨年の9月の自民党総裁選で安倍さんが無投票で再選した。ここから自民が大きく変わったのではないか。93年から政治制度改革で小選挙区制が導入され、選挙の公認権を盾に総裁、執行部の力が強くなった。導入前に初当選し「声を上げないといけない」といついた当時の若い人が、5回、6回と当選を重ねるうちに声を出さなくなり、結果、皮肉にも安倍さんの無投票を演出した。その93年初当選組は自民では安倍、岸田、塩崎、野田（聖）。日本新党が野田（佳）、前原、枝野、小池。石破さんは86年初当選で昭和の最後。象徴的だ。無投票は派閥政治の頃は考えられない。派閥政治が日本全体を引っ張っていたとも言えるかもしれない。

古賀 派閥に戻るのがいい？
末次 そうではないが、活力は失われた。私もまだ答えがでない（笑）
古賀 いずれにしてもこの30年間の

日本の政治の歴史、大変化を世論フォーラムはフォローしてきたと思う。

なぜ二大政党に移行しないのか？

「自民党は「分配政治」から「負担を分け合う政策」が行き詰まり、選挙制度改革で小選挙区制を導入した。非自民の1年、民主の3年があったものの、あとは「自民政権」。どうして二大政党へスムーズに移行しないのでしょうか。

前田 やはり選挙を勝ち抜くという点で、地方組織を強くしないといけない。地方で政党として認められるかどうかだ。そこで、どの政党がいいのかと考えると、結局自民しか選択肢がない。新しい政党が中央で権力を取るには地方での浸透が不可欠。それには時間がかかる。民主政権が3年3ヶ月の間で成果を出して国民の関心を引きつけていたら、もしかしら変わったかもしれないが、結果は出なかった。

古賀 議院政党として自民党の部分だけ見ると、議席が象徴だが、県議会など地方議会の構成をみると、中央政界で自民が下野しようが、地方は圧倒的に自民党が与党だ。土着保守というか、地方に行けば行くほど

人間関係の密度が必要。だから自民の強さは失われない。そこが強さだろう。二大政党がスムーズにいかないのはやはり小選挙区・比例代表制の組み合わせが中途半端だと思う。例えば、比例で野党第一党を名乗れば反自民票があり、たいした実績のない人が当選してしまう。ぬるま湯というか、議員であればいいと。活動に迫力がない。すべてを小選挙区にしるとは極論かもしれないが、選挙制度としては中途半端だ。

前田 本当はすべて小選挙区制でスタートするはずだった（笑）

末次 民主がなれないのは右左のウイングが自民より広すぎる。責任政党の体裁がない。かつての社会党は政権取りには行かなかった。

前田 小選挙区制度は本来、政党のトップ同士が争うが、そこがない。安倍さんを選んだ結果、政策の右傾化を選んだのは当然の流れか。小選挙





執行役員社長室長
小菅洋人(こすげ ひろと)

1982年入社。宇都宮支局、87年政治部、04年静岡支局長、論説委員などを経て09年政治部長、東京本社編集局次長、大阪本社編集局長、16年6月から現職



東京本社編集編成担当補佐
前田浩智(まえだ・ひろとも)

1985年入社。北海道支社報道部から93年に政治部。自民党森派(清和会、現細田派)を主に担当した。政治部長、編集編成局次長を経て、17年4月から現職。15年4月から1年間、TBSの情報番組「あさチャン!」にニュースコメンテーターとして出演した。



編集編成局次長
末次省三(すえつぐ・しょうぞう)

1986年入社。水戸支局を振り出しに社会部を経て98年から政治部。加藤の乱、小淵恵三首相の急逝などを現場で取材した。小泉政権で首相官邸キャブ。水戸支局長、社長室委員などを歴任後、2014年から政治部長を3年間務めた。今年4月から現職。

区制度での公認権は絶大で、今は総裁、幹事長の顔色を伺い、結果、活力が失われた。ヒラメ型の政治家、サラリーマン的な政治家が増えた。有権者というか本来の政治家は地方で足場を固め、「一国二城の主」としてあるべきだ。

小菅 今の自民は、言葉は悪いかもしれないが「営業右翼」的。振り返れば、自民党が野党時代、民主に対抗するために谷垣さんが過激な憲法草案で目立とうとした。そのあと安倍政権が誕生し、特に中国、尖閣諸島や南沙諸島、北朝鮮と国民ニーズに訴えた。メディアは政権批判を唱えるが、国民世論は右寄り受ける。路線として今の自民党は支持されていると思う。

思い出の政治家はだれ？

ー少し柔らかい話を。思い出の政治家、エピソードなど自由に語ってください。

末次 一番は小泉さんの郵政解散。小泉さんは16分30秒蕩々としゃべった。官邸キャブで幹事社だったので目の前で聞いた。参院で否決されての衆院解散はむしろちゃだが、権力者は何でも出来るのかと感じた。

前田 小泉さん最初の総裁選。森さんも出ない。YKKのだれも出ない。加藤さんが「純ちゃん出れば？」くらい感じで「小泉で勝てるわけがない」との雰囲気。飯島秘書がある夜、記者を集めた。小泉さんのたわいもない話の終わり頃、急に「ここで総裁選に出るって言ったらニュースになるかなあ」と。それから活字になり、「小泉氏検討」と。すると、若手に小泉待望論が出て、推薦人30人集まった。メディアをうまく使った。小泉流の直感が凄いと感じた。

小菅 小泉さんの厚労大臣で担当。最初にかタカナ英語、例えばナース

安倍一強体制をどう見る？

ー最後に、安倍政権の一強体制が続いているが、今後は？

前田 安倍さんはフアジーなどもある。集団的自衛権にしても、改憲論にしても「9条も手は付けるが、一項は残しましょう」はないだろう。こじんまりした案で満足しているようようだ。

末次 昔の政治家は「名より実」だが、安倍さんは集団的自衛権の憲法解釈を閣議決定したことで満足している。安倍さんは「実より名」のではないか。

古賀 でも政治家は原則主義だけではだめ。その点で安倍さんは妥協の仕方、空気はよく読んでいる。政治家としての立ち振る舞いは長けてると思う。



論説委員長
古賀 攻(こが・こう)

1983年入社。青森支局から東京社会部を経て政治部。小泉純一郎内閣発足時の首相官邸キャブ。神戸支局長、政治部長、大阪編集局次長、東京編集編成局次長、論説副委員長を経て2016年から現職。



政治部長
佐藤千矢子(さとう・ちやこ)

1987年入社。長野支局を振り出しに90年から政治部。経世会分裂や梶山静六元官房長官を担当した。2001年からワシントン特派員。第1次安倍政権で首相官邸キャブ。2013年から論説委員(外交・安全保障担当)を4年間務めた後、今年4月より政治部長。

小菅 ところで追い込まれての解散は？

佐藤 北朝鮮問題もあり、臨時国会の冒頭解散は日程的にもありえないのではないか。あと20日しかない。

末次 言われていたのは「来年の秋は追い込まれていない」と誰もが思った。だから解散は来年暮れが大本命だったが、今はそういう政治状況でなくなった。10月の補選3連敗という調査が出れば解散はすると思う。

前田 やろうと思えば十分出来る。

小菅 民進も厳しい。幹事長予定の山尾にスキャンダルも出そうだ。自民にはチャンスだ。安倍さんには神風が吹きそうだ。(笑)

ーいろいろとご意見を伺いました。いずれにしても、いつの時代も政治、政局は目が離せないというところですか。ありがとうございます。



<取材協力>

水炊き料亭 博多華味鳥
[銀座四丁目店]

東京都中央区銀座 4-9-13
銀座 4 丁目タワー B1
TEL:03-3547-3211



毎日・世論フォーラム
女性会員座談会

女性活躍の風を語る

—まず、現在のお仕事を
お聞かせください。

安田 ラジオ局の制作・編成・営業を統括するラジオ局長をしています。報道局アナウンス部時代には情報番組「探検！九州」のメインキャスターを24年間務めました。

一瀬 西部ガスで総務広報部の広報室マネジャーをしています。報道対応、社内報・ホームページ・会社案内等の制作、企業広告、IR（投資家向け広報）を担当しています。

上田 NTT西日本九州事業本部で総務部広報室長をしています。九州支社の法人営業本部、福岡支店総務部、本社マーケティング部を経験しました。

吉留 博多駅構内にある商業施設（マインゲ、博多1番街、博多駅地下街）を管理運営するデイベロップア社の博多ステーションビルで取締役広報販促部長をしています。

—さて、2015年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（通称…女性活躍推進法）が成立しました。みなさんの職場での取り組みを教えてください。

一瀬 平成26年に多様な人材が活躍する組織を目標に、以後10年間の「女性活躍推進基本計画」を作りました。次世代リーダー育成、育児期キャリア、女性の部下を持つ上司向けには多様なマネジメントの研修制度や女性ワーキンググループ活動、メンター制度などを実施しています。

上田 九州独自の取組みとして、女性のリーダー層を育成するプログラムや自主活動委員会の支援など10年以上継続しています。

一瀬 子育て中のパパを対象に働き方実践セミナーも開催しています。妊娠期から育児期の女性を対象に制度面だけでなくソフト面でサポート

NTT 西日本
“光”ひろがる。ひびきあう。

もっともっとワクワクする未来へ。

通信で叶えたい夢がある。
みんながつながりあえば、未来はもっともっと楽しくなる。
そんな未来を、NTT西日本はお客さまに届けたい。
ワクワクする未来を、安心とともに。

審査 17-T2

JAPAN AIRLINES

いま、空のWi-Fiが常識に変わる。

JAL 国内線 ずっとWi-Fi無料宣言！

JAL国内線のWi-Fiは、次の進化へ。

詳しくは www.jal.co.jp/dom/wifi_free/

※JAL運航およびJTA運航の一部機材のみの設定となります。
※当サービスは通信衛星を介して提供されるため、飛行状況や天候によっては接続が不安定になることがあります。
※機内での無線LAN対応端末およびイヤホンの貸出しはございません。

one world member

詳しくはこちら

JAL
明日の空へ、日本の翼

する「ママリタインプログラム」も今年からスタートしました。産前産後の大切な時期を乗り切り、職場の重要な戦力として復帰するためのサポート制度です。妊娠が分かっただけから育休復帰後まで、本人と上司が定期的に面談をして意思を確認したり、人事担当者から制度説明を受けるなど精神面もサポートします。

安田 RKBでは人事部、ラジオ営業部、ラジオ編成部、テレビ制作部、PRセンター部、アナウンス部で女性部長を登用してきました。育児休暇や介護休暇制度、時短制度も充実していて、子育てと仕事の両立が可能な環境です。休日・深夜勤務もあり、ハードな業務ですが、メリハリのある勤務体制のおかげで、報道機関としての使命感ややり甲斐を感じます。

吉留 私以外には、女性マネジャーは1名（総務部総務課長）。今のところは「女性の登用制度」として整っていませんが、今後、女性社員が増えれば対応する必要があると思います。

「全国的に見て九州は「まだまだ男性社会」の印象があります。女性の立場から見て職場の雰囲気はどうですか？」

介護をする人も引け目を感じずに活躍できる。女性活躍の時代と言われるますが、男女の隔てなく、人として活躍できる社会が理想だと思います。**一瀬** 「女性活躍」と殊更に言わない状態（男女の別なく活躍できている状態）が最終的なゴールだと思います。業界や地域によって温度差はありますが、20年程前までは、補助的役割が多く、仕事で女性に期待を寄せられる場面は少なかったようにですね。その頃と比べるとずいぶん環境は変化しましたが、まだ過渡期だと感じます。男女差や年齢、価値観の違いをそれぞれ尊重して受け入れられる、誰もが輝ける社会が実現することを期待します。そのために、女性も今の境遇に甘んじず、精いっぱい努力をすることが大切だと思いますね。**吉留** 広告会社に勤務した13年前から5年間、東京オフィスの責任者として東京転勤の経験をしたましたが、当時は九州の企業で、女性管理職が東京転勤するケースは珍しかったですね。得意先の全国展開をサポートする部隊の責任者という重要なポジションでしたが、私を信頼してチャンスを与えてくれた会社の幹部に感謝しています。広告会社へ転職前に長く東



RKB毎日放送(株)ラジオ局長
安田 瑞代氏

安田 九州というより、日本全体がまだまだ男性社会のような気がしますね。女性が消費を主導している時代にあつてこの状況はもったいないような。商品開発や経営企画に女性がもつと携わる機会が増えれば、ユーザー目線の商品が開発され、消費が増え経済も活性化すると思います。福岡は女性が多い県なので、女性の潜在労働力を活かせばヒット商品が増え、さらに元気になるのではないのでしょうか。

吉留 21年間、東京で勤務した経験から、九州の男性には、女性が長期的に働くことや、キャリアステージを重ね「チャンスを与えていく」という意識の改革が必要だと思います。ワークライフバランスを保ちつつ、自分らしく輝ける働き方の選択が男女関係なく求められている時代だと感じま

京経験があつたとは言え、その経験が更に大きな仕事と向き合えるチャンスになりました。男女という向き合い方ではなく、「女性でもその個人が持つ潜在的な力を発揮できるような社会」になれば素敵ですね。

上田 昨年1年間、福岡県などが主催し、企業団体の女性が集う「女性の大活躍推進福岡県会議」に参加しました。そこでの活動では、女性が問題意識を持ちながら「地域をよりよいものにしていきたい」という思いを抱く、多くの女性の方と出会い、大変刺激を受けました。参加した企業の皆さんの、制度面の充実や育成など、積極的な取り組みが進められていて、女性活躍のステージ向け、少しずつ変化してきていると感じます。

「最後に、世論フォーラムでは昨年6



(株)博多ステーションビル 取締役 広報販促部長
吉留 景子氏



西日本電信電話(株) 福岡支店広報室長
上田 智子氏

すね。女性の活躍には、男女における多様で柔軟な働き方の実現が不可欠。女性の活躍で周囲の男性を刺激し、生産性が向上していくような、多様な人材による新しい価値の創造を目指せる、そんな九州になったらいいですね。

一瀬 業務分担などの場面ではほとんど男女差を感じません。活躍を期待して声をかけてもらうことも増えてきました。他の地域で暮らしたことがなく、比較できませんが、年配の方の中には昔ながらの男女の「役割意識」を持つ方がいらつしやると感じるがあります。「これは女性の役割」という考えの一方、「男性が女性を守ろう」という優しさもお持ちだと感じます。男女差は個性の一つなので、得意な分野で能力を発揮できる環境があれば、すべてを男女平等

月に初めて女性セミナーを開催しました。第2回を年明けに予定しています。今後フォーラムに期待することを聞かせください。

一瀬 若い世代の女性たちから、「女性のロールモデル」が少ないと声をよく聞きます。いろいろな業界で活躍されている女性のお話が伺えるような機会や企画もいいと思います。そのセミナーから実践的なヒントが得られるようなフォーラムを期待します。

上田 さまざまな分野で活躍されている方のお話を聞き、女性ならではの新しい視点や気づきを得る機会になれば有意義だと思います。

吉留 トランプ大統領や北朝鮮の動きも今や私たちの生活に直結する時代です。女性だから、政治や経済、外交に疎くても良いという時代では



(株)西部ガス 総務広報室マネージャー
一瀬 香氏

にする必要はないと思います。

上田 家族も大切、だけど仕事もあきらめたくないという思いを叶えやすい社会。その上で、周囲がその思いを理解し、人を育てていく社会でしょうか。（男性だから、女性だから）こうあるべきという思い込みをなくし、期待し、育てていくことで、よりよい方向に変わっていくのだと思います。

「今後、さらに女性活躍への期待も高くなると思われます。これまでのご自身の経験からどのような社会を期待しますか？」

安田 40歳代の10年間は、アナウンス部に所属しながら、ラジオ・テレビのドキュメンタリー番組の制作に携わり、部署や経験を越えて企画や熱意を評価してもらえました。会社には子育てを「部下や後輩の力を伸ばす仕事に活かして欲しい」という雰囲気があり、経営トップの方針が大きいと感じます。女性がライフイベントで退職せずに済むことが当たり前になれば、多様な考えを仕事に活かして活躍できるのではないのでしょうか。長時間労働ではなく「短時間で成果を出す人」が評価されれば、子育てや

ない。女性聴講者にもわかりやすい、テーマ設定や講師ラインナップを期待します。更に各社必ず1名の女性会員も登録して貰うと、女性もフォーラムに参加しやすくなるかもしれませんね。

安田 女性を取り巻く環境も日々変化しています。「今を知る」という事がとても大切だと感じています。今後、タイムリーな情報を共有し、議論できるようなフォーラムを期待しています。

「貴重なご意見、ありがとうございます。」

フォーラム女性セミナー

2016年6月に大日本茶道協会会長、松平洋史子さんを招き「女性活躍の時代に学ぶ、松平家の作法」と題して開催。女性会員100人が参加しました。



博多世論居酒屋レポート

「博多世論ほろ酔い談議」

大きな赤提灯に引き寄せられるように各界の要人が集まる酒場が、福岡市博多区下川端町にある。「酒房 やす」。創業1958(昭和33)年の老舗で、毎日「世論フォーラム」の関係者の「常宿」でもある。酒量が増えるとともにトークは熱を帯び、「夜のフォーラム」が繰り広げられる。【毎日新聞福岡本部報道部 山田宏太郎】



取材協力 | 酒房 やす | 福岡県福岡市博多区下川端町8-17 お問い合わせ／092-291-7408
地下鉄中州川端駅7番出口より徒歩2分 営業時間／[月～土] 17:00～22:30 定休日／日祭日

想像を、チカラに。



人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
in 鹿島

鹿島建設株式会社九州支店
常務執行役員 支店長 河野 健吾

必要な時だけレンタル！山口県・九州全域どこへでもお届けします。

OBA
www.41-4009.net

フォークリフトのレンタルを
お考えなら「大庭産業」



23トンフォークリフト

フォークリフトおおば

株式会社大庭産業

お電話でのご注文
お問い合わせは

0120-41-4009

「森喜朗さんの
時は大変だった！」
RKB毎日放送・永守相談役



「いつも白熱
していますね」
九州電力・中村さん



ここは博多の「夜の世論フォーラム」

フォーラムテーマは酒の肴

10月31日。生ビールや焼酎をあ
おるフォーラム関係者の会話はいつに
も増して盛り上がっていた。という
のも、衆院選が終わって間もない上
に、前日のフォーラムの講師は選挙
で注目の的となった日本ファーストの
会代表、若狭勝氏だったのである。

今日の肴は、希望の若狭氏？

「いやー今回は参ったよ」。フォー
ラムを主催する毎日新聞西部本社
の岩松城代表が苦笑いする。若狭
氏が講師に決まったのは衆院選のは

フォーラム会員の常連が参戦

同じ席で肩を並べるのはフォーラ
ム会員の鹿島建設九州支店営業部
の峰崎暁一さんと大神善通さん、RKB
毎日放送相談役の永守良孝さん、
毎日新聞西部本社の山本修司編集
局長。



隣の席ではかつて福岡勤務だった
九電工熊本支店営業部の久保田朗
生さんと毎日新聞西部本社の松藤
幸之補代表室長が語っている。
九州電力広報推進グループの中
村圭介さんもやや遅れて参戦した。

「若狭さん、
目論見は
よかつたんやけどねえ」
やす・大庭さん

いろんな人が情報持ち寄る 大人の社交場

話題は衆院選から政治家談義に。
「自民党は圧倒的的支持を得たと言っ
てるけどそうじゃない。危機感がな
い」「福岡〇〇区の〇〇は×××××」。
際どい発言が飛び交う。

「やす」はフォーラム当初から関
係者の行きつけとなっている。年1
回開かれる会員向けの感謝のつどい
の後、参加者が二次会で流れてくる
場所となっていたためだ。店にはも
ともと与野党を問わず政治家が訪
れ、財界、スポーツ界の客も多かった。

博多の味が味わえる ピーター・ランダーズ氏も感激

ゴマサバやアゴ（トビウオ）の生
干しなど博多の味を中心に100種
類近くがそろうメニューに加え、RKB
ラジオで番組も持つ大庭さんとの
会話が魅力。大庭さんは博多祇園
山笠土居流下土居町総代も務めて
おり、山笠関係者も集う。
店は古き良き博多情緒を醸し出
している。ウォールストリートジャー

ナル東京支局長、ピーター・ランダー
ズ氏も2月のフォーラム講演後に訪
れ「これが日本の文化」と料理や
雰囲気感激していたとか。

「いろんな人がいろんな情報を持っ
ているからここでつながりができる」
と大庭さん。

隣あわせた同士、肩書に関係な
くざつくばらんに話せる店は、今で
は希少な大人の社交場だ。
「是非一度きてみんしゃい！」



「いやー参った！
講師人選も
ひと苦労」
毎日新聞・岩松西部代表



「次の予定が
ありまして…」
鹿島建設・峰崎さん



「毎日・世論フォーラム」これまでの講師一覧				
第1回～300回(1992年～2017年)				
※肩書きは当時				
第1回	1992年1月	加藤 紘一	・内閣官房長官	「国際貢献と生活大国」
		栗山 尚一	・次期駐米大使	「『第3の開国』と外交」
第2回	1992年2月	小沢 一郎	・元自民党幹事長	「国家と個人の自己変革」
		中平 立	・日朝交渉首席代表	「平和と安定のために」
第3回	1992年3月	C・Fバーグステン	・米国際経済研究所長	「日・米・欧で集团的運営を」
		渡辺 泰造	・前外務省報道官	「日本外交を報道・世論」
第4回	1992年4月	羽田 孜	・大蔵大臣	「政治改革と経済の復興」
		小和田 恒	・外務事務次官	「冷戦後の日本外交」
第5回	1992年5月	鈴木 永二	・臨時行革審会長	「これからの経済人」
		妹尾 正毅	・地球サミット担当大使	「地球サミットと日本の役割」
第6回	1992年6月	柿沢 弘治	・外務政務次官	「PKOと日本」
		棚橋 祐治	・通産事務次官	「国際化時代の通商産業政策」
第7回	1992年8月	梶山 静六	・自民党国家対策委員長	「参院選後の政局」
		兵藤 長雄	・外務省欧亜局長	「エリツィン訪日を控えて」
第8回	1992年9月	谷野 作太郎	・内閣外政審議室長	「日本のアジア外交」
		楊 振亜	・駐日中国大使	「中国最新事情」
第9回	1992年10月	橋本 龍太郎	・元大蔵大臣	「政局と国際情勢」
		松浦 晃一郎	・外務審議官	「世界の新秩序と日本」
第10回	1992年11月	景気シンポジウム「日本経済の現状と今後の政策の在り方」〔パネラー〕小島 正興・セコム副会長、		
		島本 禮一・日本総研理事長、児玉 幸治・日本興業銀行顧問、佃 亮二・福岡銀行頭取		
第11回	1992年12月	小淵 恵三	・元自民党幹事長	「日本政治の課題」
		小倉 和夫	・外務省経済局長	「日本の経済外交」
第12回	1993年1月	河野 洋平	・内閣官房長官	「変革と実行の政治」
		小泉 純一郎	・郵政大臣	「今後の政局について」
第13回	1993年2月	英 正道	・外務省外務報道官	「米新政権と日本外交」
		飯田 庸太郎	・経団連副会長	「自主技術確立を旨として」
第14回	1993年3月	松田 慶文	・前駐デンマーク大使	「EC統合の展望」
		後藤田 正晴	・副総理兼法務大臣	「日本政治の行方」
第15回	1993年4月	小和田 恒	・外務事務次官	「当面の外交課題」
		海部 俊樹	・前内閣総理大臣	「政治改革の行方」
第16回	1993年5月	鈴木 勝也	・外務省情報調査室長	「アジアの安全保障」
		盛田 昭夫	・ソニー会長	「新しい世界経済秩序」
第17回	1993年6月	遠藤 哲也	・日朝交渉政府代表	「最近の北朝鮮情勢」
		中内 功	・ダイエー会長兼社長	「豊かさ実感できる社会」
第18回	1993年7月	中村 徹	・運輸事務次官	「21世紀の交通運輸展望」
		岩見 隆夫	・毎日新聞編集顧問	「どうなる日本の政治」
第19回	1993年8月	松浦 晃一郎	・外務審議官	「サミット後の日本外交」
		藤井 裕久	・大蔵大臣	「新政権の経済運営」
第20回	1993年9月	武村 正義	・内閣官房長官	「新政権の政治課題」
		野村 一成	・外務省欧亜局長	「ロシア情勢と日本」
第21回	1993年10月	熊谷 弘	・通産大臣	「日本経済の課題」
		佐藤 行雄	・外務省北米局長	「日米関係の今後」
第22回	1993年11月	児島 仁	・NTT社長	「知のゲーム」時代
		寺田 輝介	・外務省外務報道官	「国際貢献の新時代」
第23回	1993年12月	羽田 孜	・副総理兼外務大臣	「今年の政局展望」
		賀来 龍三郎	・経済同友会代表幹事	「これからの日本」
第24回	1994年1月	枝村 純郎	・前駐ロシア大使	「ロシアから帰って」
		岩見 隆夫	・毎日新聞編集顧問	「細川内閣の命運」
第25回	1994年2月	松浦 晃一郎	・外務審議官	「日米協議その後」
		久米 豊	・経団連副会長	「最近の通商問題」
第26回	1994年3月	北村 汎	・前駐英大使	「英国から帰って」
		渡部 恒三	・新生党代表幹事代行	「政界再編の行方」
第27回	1994年4月	赤尾 信敏	・国際貿易経済担当大使	「新貿易体制と日本」
		河野 洋平	・自民党総裁	「羽田内閣を斬る」
第28回	1994年5月	遠藤 哲也	・日朝交渉政府代表	「核疑惑と朝鮮半島情勢」
		鹿野 道彦	・新党みらい代表	「政局に挑む」
第29回	1994年6月			
第30回	1994年7月			

水たき料亭

博多
華味鳥
HANAMIDORI



博多
水たき



九州の大自然で自らが育んだ「華味鳥」を最高の状態で存分に味わっていただきたい！
そんな思いで皆さまをお迎えしております。
新鮮な鶏とミネラル水を使って独自の製法で造り上げた「滋味あふれるスープ」と創業者が試行錯誤して造り上げた「鶏の旨味を活かすばん酢」で、鶏本来の味をお楽しみください。

素材への慈しみが
美味しさの根底に。

福岡地区

中洲本店
TEL 092-263-0322

祇園店
TEL 092-273-1219

那の川店
TEL 092-523-6622

博多駅筑紫口店
TEL 092-432-8737

天神西通り店
TEL 092-724-0502

西中洲店
TEL 092-737-9696

博多駅前店
TEL 092-432-1801

博多駅前店 離れ
TEL 092-477-3812

天神店
TEL 092-738-5583

大阪地区

心斎橋店
TEL 06-6252-5536

梅田店
TEL 06-6456-2054

北新地店
TEL 06-6346-0625

ヒルトンプラザウエスト店
TEL 06-4799-3223

愛知地区

名古屋栄店
TEL 052-249-8135

東京地区

銀座四丁目店
TEL 03-3547-3211

銀座二丁目店
TEL 03-3562-9725

京都地区

京やさいと水たき華味鳥
TEL 075-254-8770

広島地区

広島胡町店
TEL 082-504-8177

41

40

第 63 回	1997 年 4 月	木暮 剛平	・ 電通会長	「これからの社会、これからの経営」
第 64 回	1997 年 5 月	松野 頼三	・ 自民党顧問	「最近の動揺する政局」
		西村 元彦	・ 外務省大阪担当大使	「仏語圏諸国ーその国際的影響力」
第 65 回	1997 年 6 月	与謝野 馨	・ 内閣官房副長官	「橋本6大改革と政局の行方」
		渡邊 幸治	・ 前駐ロシア大使	「最近のロシア事情」
第 66 回	1997 年 7 月	青木 盛久	・ 前駐ペルー大使	「ペルー事件と私」
第 67 回	1997 年 8 月	山崎 拓	・ 自民党政調会長	「橋本政権の政策課題と展望」
		今川 幸雄	・ 前駐カンボジア大使	「カンボジア政策とアジアの動向」
第 68 回	1997 年 9 月	岩見 隆夫	・ 毎日新聞編集顧問	「第2期橋本体制の行方」
		孫崎 亨	・ 外務省国際情報局長	「最近の国際情勢」
第 69 回	1997 年 10 月	菅 直人	・ 民主党代表	「民主党の政策と役割」
		渡辺 泰造	・ 前駐インドネシア大使	「21 世紀への流れと日本ーアジアを中心として」
第 70 回	1997 年 11 月	武村 正義	・ 元大蔵大臣	「行革と政界再編」
		村田 良平	・ 外務省顧問	「最近のヨーロッパの動向」
第 71 回	1997 年 12 月	中坊 公平	・ 住宅金融再建管理機構社長	「住宅金融債権管理機構の現状設立2年目を迎えて」
		栗山 尚一	・ 外務省顧問	「21 世紀に向けた日米関係」
第 72 回	1998 年 1 月	岸井 成格	・ 毎日新聞論説副委員長	「今後の政局の動向」
		長谷川 和年	・ 前駐オーストラリア大使	「アジア太平洋時代の将来」
第 73 回	1998 年 2 月	鼎談「韓国情勢と朝鮮半島」(講師) 安秉勳・朝鮮日報専務、中平 立・初代日朝交渉政府代表、重村 智計・毎日新聞論説委員		
第 74 回	1998 年 3 月	加藤 紘一	・ 自民党幹事長	「政局の動向」
		茂田 宏	・ 総理府国際平和協力本部事務局長	「PKO法の改正」
第 75 回	1998 年 4 月	野中 広務	・ 自民党幹事長代理	「国政の課題と政局」
		山口 洋一	・ 前駐ミャンマー大使	「最近のミャンマー情勢と今後の見通し」
第 76 回	1998 年 5 月	羽田 孜	・ 民主党幹事長	「民主党の役割と課題」
		沼田 卓昭	・ 外務省外務報道官	「対外発信について」
第 77 回	1998 年 6 月	嵩 信彦	・ ジャーナリスト	「これから 10 年の生き方」
		佐藤 嘉恭	・ 前駐中国大使	「最近の中国情勢」
第 78 回	1998 年 7 月	山崎 拓	・ 自民党政調会長	「参院選後の政局と課題」
		阿部 信泰	・ 外務省軍備管理・科学審議官	「インド・パキスタンと核軍縮」
第 79 回	1998 年 8 月	関本 忠弘	・ NEC会長	「元気を出せ日本」
		堀内 伸介	・ 前駐ケニア大使	「アフリカにおける政治・経済の流れ」
第 80 回	1998 年 9 月	鳩山 由紀夫	・ 民主党幹事長代理	「民主党の政権戦略」
		坂本 重太郎	・ 前駐スペイン大使	「スペイン事情とEU連合」
第 81 回	1998 年 10 月	亀井 静香	・ 元建設大臣	「今後の政局」
		牧野 力	・ 前通産事務次官	「21 世紀に向けての産業政策の課題」
第 82 回	1998 年 11 月	渡部 恒三	・ 衆議院副議長	「政局の課題」
		後藤 利雄	・ 財交流協合理事長	「日台関係の現状について」
第 83 回	1998 年 12 月	神崎 武法	・ 公明党代表	「これからの政局の動向」
		木村 崇之	・ 地球環境問題担当大使	「地球温暖化防止会議を終えて」
第 84 回	1999 年 1 月	岩見 隆夫	・ 毎日新聞編集顧問	「政局の動向」
		須藤 隆也	・ 駐イラン大使	「イランの現状」
第 85 回	1999 年 2 月	深谷 隆司	・ 自民党総務会長	「小渕政権の今日と明日」
		寺田 輝介	・ 日朝交渉政府代表	「朝鮮半島問題について」
第 86 回	1999 年 3 月	加藤 紘一	・ 自民党前幹事長	「政局の動向」
		小池 唯夫	・ (社)日本新聞協会会長	「日本再生への道」
第 87 回	1999 年 4 月	梶山 静六	・ 元内閣官房長官	「これからの日本」
		門田 省三	・ (社)国民外交協合理事長	「日本の外交」
第 88 回	1999 年 5 月	大原 一三	・ 元農林水産大臣	「日本経済再生の条件」
		田島 高志	・ アジア生産性機構事務局長	「カナダの現状と日加関係」
第 89 回	1999 年 6 月	小泉 純一郎	・ 衆議院議員	「今後の政局」
		湯下 博之	・ 前駐フィリピン大使	「アジアとのおつきあい」
第 90 回	1999 年 7 月	小和田 恒	・ 財日本国際問題研究所理事長	「21 世紀を迎える世界と日本」
第 91 回	1999 年 8 月	柳沢 伯夫	・ 金融再生担当相	
第 92 回	1999 年 9 月	対論「朝鮮半島を読む」 小此木 政夫・慶應義塾大学教授 重村 智計・毎日新聞論説委員		
第 93 回	1999 年 10 月	野呂田 芳成	・ 前防衛庁長官	「わが国の防衛問題について」
		太田 博	・ 前駐タイ大使	「最近のタイを中心としたアジア情勢」
第 94 回	1999 年 11 月	渡部 恒三	・ 衆議院副議長	「政局の課題」
		野村 一成	・ 沖縄担当大使	「沖縄と日本の安全保障」
第 95 回	1999 年 12 月	高村 正彦	・ 前外務大臣	「日本の外交」
		岸井 成格	・ 毎日新聞編集委員	「政局の動向」

第 30 回	1994 年 7 月	原口 幸市	・ 外務省経済局長	「ナポリ・サミットを終えて」
第 31 回	1994 年 8 月	加藤 紘一	・ 自民党政調会長	「自社連立の今後」
		重村 智計	・ 毎日新聞論説委員	「どうなる朝鮮半島」
第 32 回	1994 年 9 月	五十嵐 広三	・ 内閣官房長官	「村山内閣の仮題」
		村田 良平	・ 前駐独大使	「ドイツの現状と将来」
第 33 回	1994 年 10 月	亀井 静香	・ 運輸大臣	「運輸行政の役割」
		川田 洋輝	・ 資源エネルギー庁長官	「これからのエネルギー政策」
第 34 回	1994 年 11 月	久保 亘	・ 社会党書記長	「新党構想と政界再編」
		平林 博	・ 外務省経済協力局長	「対アジア経済協力の課題」
第 35 回	1994 年 12 月	永野 健	・ 日本経営者団体連盟会長	「これからの日本経済」
		寺田 輝介	・ 外務省外務報道官	「日本外交の回顧と展望」
第 36 回	1995 年 1 月	岸井 成格	・ 毎日新聞政治部長	「政局を読む」
		高島 有終	・ 外務省国際情報局長	「今年の国際情勢」
第 37 回	1995 年 2 月	羽田 孜	・ 新進党副党首	「新新党の政権戦略」
第 38 回	1995 年 3 月	梶山 静六	・ 前自民党幹事長	「今後の政局展望」
		湯下 博之	・ 外務省研修所長	「ベトナムの現状と日本」
第 39 回	1995 年 4 月	高村 正彦	・ 経済企画庁長官	「当面の景気・政治動向」
		川島 裕	・ 外務省アジア局長	「アジアを語る」
第 40 回	1995 年 5 月	細川 護熙	・ 元内閣総理大臣	「日本政治の課題」
第 41 回	1995 年 6 月	土井 たか子	・ 衆議院議長	「言論の府から」
		瀬木 博基	・ APEC日朝交渉担当大使	「APEC 大阪会議の課題」
第 42 回	1995 年 7 月	小林 陽太郎	・ 富士ゼロックス会長	「日米経済関係の行方」
		原口 幸市	・ 外務省経済局長	「国際経済の諸断面」
第 43 回	1995 年 8 月	田中 秀征	・ 新党さきがけ代表代行	「日本の政治の行方」
		寺田 輝介	・ 駐メキシコ大使	「21 世紀の中南米」
第 44 回	1995 年 9 月	野中 広務	・ 前自治大臣	「自民党の役割」
		法眼 健作	・ 外務省中近東アフリカ局長	「現下の中東情勢」
第 45 回	1995 年 10 月	石原 信雄	・ 前内閣官房副長官	「官と政を語る」
		橋本 宏	・ 外務省外務報道官	「当面の外交課題」
第 46 回	1995 年 11 月	岩見 隆夫	・ 毎日新聞社編集顧問	「政局を語る」
		波多野 敬雄	・ 元国連大使	「国連 50 年」
第 47 回	1995 年 12 月	水野 清	・ 自民党行財政調査会会長	「規制緩和と行財政改革」
		高島 有終	・ 外務省国際情報局長	「最近の東アジア情勢」
第 48 回	1996 年 1 月	鳩山 由紀夫	・ 新党さきがけ代表幹事	「政界再編の行方」
		國廣 道彦	・ 前中国大使	「日中関係の課題」
第 49 回	1996 年 2 月	村山 富市	・ 前内閣総理大臣	「政界再々編と社民党の決意」
		今川 幸雄	・ 前駐カンボジア大使	「カンボジア和平と日本外交」
第 50 回	1996 年 3 月	加藤 紘一	・ 自民党幹事長	「政局の行方」
第 51 回	1996 年 4 月	三塚 博	・ 前自民党幹事長	「政局の展望」
		黒河内 康	・ 前駐スイス大使	「小さな大国スイス」
第 52 回	1996 年 5 月	羽田 孜	・ 新進党副党首	「日本政治の課題」
第 53 回	1996 年 6 月	諸井 虔	・ 日経連副会長	「地方分権について」
		星野 進保	・ 総合研究開発機構理事長	「日本経済の行方」
第 54 回	1996 年 7 月	菅 直人	・ 厚生大臣	「社会保障の構造改革と厚生行政」
		瀬木 博基	・ 日朝交渉政府代表	「アジア問題」
第 55 回	1996 年 8 月	海江田 万里	・ 市民リーグ代表	「これからの日本の政治経済」
		太田 博	・ 国際交流基金専務理事	「アジアにおける国際交流」
第 56 回	1996 年 9 月	岩見 隆夫	・ 毎日新聞編集顧問	「総選挙と政界再々編」
		恩田 宗	・ 前駐タイ大使	「タイを中心にしたASEAN情勢」
第 57 回	1996 年 10 月	岸井 成格	・ 毎日新聞東京本社編集局次長	「総選挙後の政界展望」
		小林 惇	・ 前経済企画庁事務次官	「日本経済と構造改革」
第 58 回	1996 年 11 月	加藤 紘一	・ 自民党幹事長	「第2次橋本内閣の課題」
第 59 回	1996 年 12 月	平野 貞夫	・ 新進党衆議院議員	「新進党の戦略」
		松田 慶文	・ 前駐フィリピン大使	「最近のフィリピン情勢」
第 60 回	1997 年 1 月	羽田 孜	・ 太陽党党首	「太陽党の役割」
		波多野 敬雄	・ フォーリンプレスセンター理事長	「世界の常識、日本の常識」
第 61 回	1997 年 2 月	宮内 義彦	・ オリックス社長	「日本経済の構造改革に向けて」
		マーティン・ウィーヴァーズ	・ 駐日ニュージーランド大使	「ニュージーランドの行政改革」
第 62 回	1997 年 3 月	佐藤 光男	・ アジア開発銀行総裁	「アジアをどう見るか」
第 63 回	1997 年 4 月	中曽根 康弘	・ 元内閣総理大臣	「戦後 50 年と明日への展望」

第 126 回	2002 年 7 月	山下 新太郎	・前交流協会台北事務所長	「台湾・韓国の対日意識」
第 127 回	2002 年 8 月	岩見 隆夫	・毎日新聞編集顧問	「政局の動向」
		茂田 宏	・国際テロ対策担当大使	「中東和平の現状と見通し」
第 128 回	2002 年 9 月	二階 俊博	・保守党幹事長	「政局の動向」
		荒 善尚	・前駐フィリピン大使	「最近のフィリピン状況」
第 129 回	2002 年 10 月	対論「朝鮮半島を読む」	小此木 政夫・慶應義塾大学教授	重村 智計・毎日新聞論説委員
第 130 回	2002 年 11 月	古賀 誠	・衆議院議員	「政局の動向」
		高島 肇久	・外務省外務報道官	「日本外交の課題」
第 131 回	2002 年 12 月	神崎 武法	・公明党代表	「公明党の主張と政局の動向」
		佐藤 行雄	・前国連大使	「国連と日本」
第 132 回	2003 年 1 月	山崎 拓	・自民党幹事長	「通常国会と政局の動向」（仮題）
		木村 崇之	・前駐EU大使	「欧州統合と日本」（仮題）
第 133 回	2003 年 2 月	高村 正彦	・元外務大臣	「今年の政治課題」
		丹波 實	・前駐ロシア大使	「最近のロシアの内口関係」
第 134 回	2003 年 3 月	中山 恭子	・内閣官房参与	「拉致問題について」
第 135 回	2003 年 4 月	対論「政治を危惧する」	田中 秀征・元経済企画庁長官	岸井 成格・毎日新聞編集委員
第 136 回	2003 年 5 月	河野 洋平	・元外務大臣	「内外の政治課題」
		寺田 輝介	・前駐韓国大使	「激動の朝鮮半島情勢」
第 137 回	2003 年 6 月	榊原 英資	・元大蔵省財務官	「これからの分権国家論」
第 138 回	2003 年 7 月	岩見 隆夫	・毎日新聞特別顧問	「政局の動向」
		小倉 和夫	・前駐仏大使	仏の対米関係と外交戦略
第 139 回	2003 年 8 月	久間 章生	・元防衛庁長官	「政局の動向」
		須藤 隆也	・前駐エジプト大使	「戦争後の中東情勢」
第 140 回	2003 年 9 月	山崎 拓	・自民党幹事長	「破局の動向と第2次小泉内閣」
		糠澤 和夫	・前外務省文化交流部長	「外交と文化交流」
第 141 回	2003 年 10 月	片山 虎之助	・前総務大臣	「総選挙と政局の動向」
		後藤 利雄	・前財交流協会理事長	「最近の日台関係」
第 142 回	2003 年 11 月	扇 千景	・前国土交通大臣	「21 世紀の日本」
		藤井 威	・前駐スウェーデン大使	「スウェーデンの高福祉の社会的背景」
第 143 回	2003 年 12 月	渡部 恒三	・前衆議院副議長	「政局の動向」
		上田 秀明	・前駐ポーランド大使	「EU拡大とポーランド事情」
第 144 回	2004 年 1 月	山崎 拓	・前自民党副総裁	「今年の政治と課題」
		ジェームス・P・ズムワルト	・駐日米大使館経済担当参事官	「日米の経済関係と対日投資」
第 145 回	2004 年 2 月	額賀 福志郎	・自民党政調会長	「政局の動向」
		畠中 篤	・前駐オーストラリア大使	「最近の豪州情勢について」
第 146 回	2004 年 3 月	重村 智計	・拓殖大学教授	「日朝交渉と 6 カ国協議の行方」
		岸井 成格	・毎日新聞編集委員	「直面する政治課題」
第 147 回	2004 年 4 月	加藤 紘一	・元自民党幹事長	「我が国の政治課題」
		沼田 貞昭	・外務省沖縄担当大使	「安全保障で感じること～パキスタン・沖縄など」
第 148 回	2004 年 5 月	前原 誠司	・民主党「次の内閣」初外務大臣	「わが国の安全保障」
		猪口 邦子	・前軍縮会議日本代表部大使	「新しい国際社会と日本軍縮外交」
第 149 回	2004 年 6 月	小里 貞利	・自民党元総務会長	「九州新幹線を語る」
		小西 正樹	・前駐マレーシア大使	「最近のマレーシア情勢」
第 150 回	2004 年 7 月	野中 広務	・元自民党幹事長	「今日本を憂う」
		高橋 雅二	・前交流協会理事長	「総統選挙後の台湾情勢」
第 151 回	2004 年 8 月	河野 洋平	・衆議院議長	「昨今、議長として思うこと」
第 152 回	2004 年 9 月	藤井 裕久	・民主党代表代行	「民主党が掲げる日本の国家像」
		池田 維	・前駐ブラジル大使	「最近のブラジル情勢」（仮題）
第 153 回	2004 年 10 月	浜四津 敏子	・公明党代表代行	「連立政権と公明党」
		藤岡 誠	・前駐アラブ首長国連邦大使	「日本と中東―UAE在勤の経験を踏まえて」
第 154 回	2004 年 11 月	後藤田 正純	・衆議院議員	「若手議員が見た永田町」
		重村 智計	・早稲田大学教授	「最近の北朝鮮情勢と拉致問題」
第 155 回	2004 年 12 月	高村 正彦	・元外務大臣	「最近の内外情勢」
		竹中 繁雄	・前駐トルコ大使	「トルコと中東」
第 156 回	2005 年 1 月	岩見 隆夫	・毎日新聞編集局顧問	「今年の政局」
		折田 正樹	・前駐英大使	「最近の英国事情」
第 157 回	2005 年 2 月	石破 茂	・前防衛庁長官	「第2期プッシュ政権と日本の安全保障」
		藤崎 一郎	・前外務審議官	「日本とサミット・SPA(自由貿易交渉) など」
第 158 回	2005 年 3 月	二階 俊博	・自民党総務局長	「近ごろ想うこと」
		法眼 健作	・前駐カナダ大使	「最近のカナダ情勢と日加関係」

第 96 回	2000 年 1 月	熊谷 弘	・民主党幹事長代理	「政局の動向」
		高野 紀元	・外務省国際情報局長	「最近の国際情勢について」
第 97 回	2000 年 2 月	加藤 紘一	・自民党前幹事長	「政局の動向」
		丸山 俊二	・前駐チェコ大使	「最近のチェコ事情」
第 98 回	2000 年 3 月	綿貫 俊輔	・自民党小渕派会長	「政局の動向」
		斎藤 邦彦	・前駐米大使	「日米関係の現状と展望」
第 99 回	2000 年 4 月	冬柴 鐵三	・公明党幹事長	「連立政権と公明党」
		久保田 稜	・前駐パキスタン大使	「最近の印・パ情勢」
第 100 回	2000 年 5 月	100回記念シンポジウム ―「九州・沖縄サミット」の意義		
		〔特別講演〕河野 洋平・外務大臣		
		(パネラー) 沖縄・稲嶺、宮崎・松形、福岡・麻生各知事、毎日新聞・岸井成格(コーディネーター) 鳶 信彦・ジャーナリスト		
第 101 回	2000 年 6 月	岩見 隆夫	・毎日新聞編集顧問	「総選挙と政局の行方」
		岡本 行夫	・外交評論家(国際コンサルタント)	「国家と企業の危機管理」
第 102 回	2000 年 7 月	対論「朝鮮半島を読む」	小此木 政夫・慶應義塾大学教授	重村 智計・毎日新聞論説委員
第 103 回	2000 年 8 月	小里 貞利	・自民党総務会長	「森政権と政局の動向」
		松本 和朗	・外務省大阪担当大使	「外交の現場で感じたこと」
第 104 回	2000 年 9 月	深谷 隆司	・前通産大臣	「前通産大臣―思いを語る
		大島 理森	・文部大臣	「教育改革と課題」
第 105 回	2000 年 10 月	久間 章生	・元防衛庁長官	「21 世紀の日本とわが国の安全保障政策」
		都甲 岳洋	・前駐ロシア大使	「最近のロシア情勢と日露関係」
第 106 回	2000 年 11 月	石原 伸晃	・自民党の明日を作る会代表世話人	「自民党の将来と課題」
		瀬木 博基	・前駐イタリア大使	「世界の友人から学んだこと」
第 107 回	2000 年 12 月	辻元 清美	・社民党政審会長	「政局の動向」
		西村 元彦	・前駐ポルトガル大使	「ポルトガルの現状について」
第 108 回	2001 年 1 月	野中 広務	・自民党行政改革推進本部長	「政局の動向」
		齋藤 正樹	・前駐カンボジア大使	「失われたカンボジアの 30 年と再出発」
第 109 回	2001 年 2 月	鈴木 宗男	・自民党総務局長	「政局の動向」
		松田 慶文	・元フィリピン大使	「アジア情勢の展望」
第 110 回	2001 年 3 月	野田 聖子	・自民党副幹事長	「政局の動向」
		谷野 作太郎	・前駐中国大使	「最近の中国情勢」
第 111 回	2001 年 4 月	鳩山 由紀夫	・民主党代表	「政局と民主党の主張」
		大和田 恵朗	・前ユーゴスラビア大使	「コンボ危機とユーゴの民主化」
第 112 回	2001 年 5 月	村岡 兼造	・自民党総務会長	「新政権の役割と課題」
		中村 武	・前駐ベトナム大使	「最近のベトナムの政治経済」
第 113 回	2001 年 6 月	古賀 誠	・前自民党幹事長	「政局の動向」
		橋本 逸男	・外務省国際情報局審議官	「東アジア諸国の情勢―中国・韓国などを中心に」
第 114 回	2001 年 7 月	渡辺 喜美	・自民党衆議院議員	「小泉政権の前途」
		久米 邦貞	・前駐独大使	「ドイツから見た欧州情勢」
第 115 回	2001 年 8 月	堀内 光雄	・自民党総務会長	「石油公団は廃止する」
		荒船 清彦	・前駐スペイン大使	「スペインあれこれ」
第 116 回	2001 年 9 月	山崎 拓	・自民党幹事長	「秋の政局」
		川上 隆朗	・前駐インドネシア大使	「最近のインドネシア情勢」
第 117 回	2001 年 10 月	大原 一三	・元農林水産大臣	「これからの構造改革」
		岩見 隆夫	・毎日新聞特別顧問	「政局の動向」
第 118 回	2001 年 11 月	加藤 紘一	・自民党元幹事長	「これからの日本」
		川島 純	・前駐ニュージーランド大使	「ニュージーランドはいま」
第 119 回	2001 年 12 月	岡田 克也	・民主党政調会長	「わが国の現状と民主党の立場」
		柳井 俊二	・前駐米大使	「日本の外交―米国から帰って
第 120 回	2002 年 1 月	野田 毅	・保守党党首	「小泉政権と保守党の課題」
		糠澤 和夫	・前駐ハンガリー大使	「民間大使の 1000 日―東欧・日本・世界」
第 121 回	2002 年 2 月	麻生 太郎	・自民党政調会長	「日本経済の行方」
		高橋 雅二	・前駐オーストラリア大使	「最近のオーストラリア」
第 122 回	2002 年 3 月	平沢 勝栄	・衆議院議員	「最近の政局について」
		服部 則夫	・外務省外務報道官	「日本外交のあり方」
第 123 回	2002 年 4 月	熊谷 弘	・民主党国会対策委員長	「民主党の方針と政局の動向」
		林 貞行	・前駐英大使	「最近の英国事情」
第 124 回	2002 年 5 月	山崎 拓	・自民党幹事長	「政局の動向」
		赤尾 信敏	・前駐タイ大使	「タクシン政権下の日タイ関係」
第 125 回	2002 年 6 月	塩崎 恭久	・衆議院議員	「経済対策と構造改革」
		鈴木 勝也	・前駐ブラジル大使	「最近のブラジル情勢と日伯関係」
第 126 回	2002 年 7 月	菅 直人	・民主党幹事長	「民主党の主張と政局の動向」

第 190 回	2007 年 11 月	榎 泰邦	・前駐インド大使	「中国とインド」
第 191 回	2007 年 12 月	小池 百合子	・元防衛大臣	「地球と日本の安全保障」
		重村 智計	・早稲田大学教授	「韓国大統領選挙と北朝鮮の行方」
第 192 回	2008 年 1 月	中川 秀直	・自民党元幹事長	「今年の政局展望」
第 193 回	2008 年 2 月	二階 俊博	・自民党総務会長	「日はまた昇るか」
第 194 回	2008 年 3 月	中川 昭一	・自民党元政務調査会長	「経済・資源の危機」
第 195 回	2008 年 4 月	石原 伸晃	・自民党前政務調査会長	「今の日本に必要なもの」
第 196 回	2008 年 5 月	野田 聖子	・元郵政大臣	「今思うこと」
第 197 回	2008 年 6 月	与謝野 馨	・前内閣官房長官	「日本の財政」
第 198 回	2008 年 7 月	菅 義偉	・前総務大臣	「分権型社会と政治課題」
第 199 回	2008 年 8 月	中山 恭子	・拉致問題担当大臣	「日本文化による国際貢献・拉致問題」
第 200 回	2008 年 9 月	塩川 正十郎	・元財務大臣	「リスクをチャンスにしよう」
第 201 回	2008 年 10 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「総選挙の結果と今後の政局の行方」
第 202 回	2008 年 11 月	岩見 隆夫	・毎日新聞編集局顧問	「政局展望」
第 203 回	2008 年 12 月	浜四津 敏子	・公明党代表代行	「自公連立政権9年の成果と今後の課題」
	(1月は中止 渡辺 喜美氏)			
第 204 回	2009 年 2 月	岡田 克也	・民主党副代表	「政権交代～この国を変える～」
第 205 回	2009 年 3 月	山崎 拓	・自民党前副総裁	「現下の政治・経済の情勢と今後の展望」
第 206 回	2009 年 4 月	鳩山 邦夫	・総務大臣⇒中止	
第 207 回	2009 年 5 月	重村 智計	・早稲田大学教授	「北朝鮮のミサイル問題と後継者」
第 208 回	2009 年 6 月	岩見 隆夫	・毎日新聞客員編集委員	「衆議院選挙の行方」
第 209 回	2009 年 7 月	榊原 英資	・早稲田大学教授	「大不況で世界はこう変わる」
第 210 回	2009 年 8 月	佐藤 優	・元外務省主任分析官	日本のあるべき国家情報戦略
第 211 回	2009 年 9 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「政界大変動」
第 212 回	2009 年 10 月	渡部 恒三	・民主党最高顧問	「衆議院選挙の結果と鳩山新政権」
第 213 回	2009 年 11 月	大島 理森	・自民党幹事長	「政権奪還への戦略」
第 214 回	2009 年 12 月	野中 広務	・元自民党幹事長	「昭和世代からの遺言」
第 215 回	2010 年 1 月	細野 豪志	・民主党副幹事長	「民主党の政権運営について」
第 216 回	2010 年 2 月	宮川 眞喜雄	・外務省国際協力局審議官	「気候変動の現状と見通し」
第 217 回	2010 年 3 月	山口 那津男	・公明党代表	「日本の進路と公明党のめざす社会」
第 218 回	2010 年 4 月	舛添 要一	・前厚生労働大臣	「日本の政治の行方」
第 219 回	2010 年 5 月	園田 博之	・たちあがれ日本幹事長	「たちあがれ日本の今後の展望について」
第 220 回	2010 年 6 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「どうなる?日本の政治・国の行く末」
第 221 回	2010 年 7 月	榊原 英資	・青山学院大学教授	「日本経済の行方」
第 222 回	2010 年 8 月	林 芳正	・参議院自民党副会長	「ねじれ国会と自民党の方針」
第 223 回	2010 年 9 月	石破 茂	・自民党政務調査会長	「我が国の行末」
第 224 回	2010 年 10 月	重村 智計	・早稲田大学教授	「北朝鮮の後継者問題と日朝関係」
第 225 回	2010 年 11 月	岩見 隆夫	・毎日新聞客員編集委員	「政局展望」
第 226 回	2010 年 12 月	河野 洋平	・前衆議院議長	「衆議院議長を辞めて一最近想うこと」
第 227 回	2011 年 1 月	宮本 雄二	・前駐中国大使	「日本の外交」
第 228 回	2011 年 2 月	小池 百合子	・自民党総務会長	「日本・自民党再生への道」
第 229 回	2011 年 3 月	後藤 謙次	・ジャーナリスト	「土依際の菅政権―たちはだかる参院審議」
第 230 回	2011 年 4 月	麻生 渡	・福岡県知事	「大震災復興と福岡県」
第 231 回	2011 年 5 月	石破 茂	・自民党政務調査会長	「震災後の日本」
第 232 回	2011 年 6 月	増田 寛也	・野村総合研究所顧問（元総務大臣）	「東日本大震災と地方分権」
第 233 回	2011 年 7 月	榊原 英資	・青山学院大学教授	「日本経済の行方」
第 234 回	2011 年 8 月	馬淵 澄夫	・前国土交通大臣	「今、日本が直面する課題」
第 235 回	2011 年 9 月	大島 理森	・自民党副総裁	「復興国会とその後の政治課題について」
第 236 回	2011 年 10 月	安倍 晋三	・元内閣総理大臣	「日本再生への道」
第 237 回	2011 年 11 月	石原 伸晃	・自民党幹事長	「今後の、日本の政治のゆくえ」
第 238 回	2011 年 12 月	岸井 成格	・毎日新聞主筆	「野田政権と混迷政治の行方」
第 239 回	2012 年 1 月	福井 俊彦	・キヤノン・ホール戦略研究所理事長（前日本銀行総裁）	20周年記念講演 「日本経済と世界経済の行方」
第 240 回	2012 年 2 月	北澤 俊美	・参議院議員（元防衛大臣）	「わが国の安全保障」
第 241 回	2012 年 3 月	五百旗頭 真	・防衛大学校（復興庁復興推進委員会委員長）	「震災復興のこれから」
第 242 回	2012 年 4 月	山口 那津男	・公明党代表⇒[変更] 高木 陽介・公明党幹事長代理	「日本がとるべき今後の進路」
第 243 回	2012 年 5 月	園田 博之	・たちあがれ日本幹事長	「決められない政治」
第 244 回	2012 年 6 月	後藤 謙次	・ジャーナリスト	「崖っぷち野田内閣―解散総選挙の行方」
第 245 回	2012 年 7 月	榊原 英資	・青山学院大学教授	「欧州危機とその世界経済への影響」
第 246 回	2012 年 9 月	伊吹 文明	・自民党元幹事長	「三党合意の政治的政策的意義」
第 247 回	2012 年 10 月	鈴木 宗男	・新党大地代表	「これからの政局について」

第 159 回	2005 年 4 月	岡田 克也	・民主党代表	「政権準備政党・民主党の決意」
		原口 幸市	・前国連大使	「安保理改革」
第 160 回	2005 年 5 月	久間 章生	・自民党総務会長	「今後の政治課題」
		田中 克之	・前駐スペイン大使	「最近のスペイン情勢」
第 161 回	2005 年 6 月	平沢 勝栄	・衆議院議員	「最近の政治情勢～日本外交の課題」
		駒野 欽一	・前アフガニスタン大使	「人間の安全保障～アフガンなど国際社会の中で」
第 162 回	2005 年 7 月	山崎 拓	・自民党前副総裁	「小泉政権の取り組みと課題」
		内田 勝久	・前交流協会台北事務所長	「台湾の将来像」
第 163 回	2005 年 8 月	河野 洋平	・衆議院議長	「議長として思うこと」
第 164 回	2005 年 9 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「新内閣の課題と行方」
		竹内 行夫	・前外務事務次官	「国際秩序と日本の外交戦略」
第 165 回	2005 年 10 月	山本 一太	・参議院議員	「小泉政治の今後」
		西村 六善	・地球環境問題担当大使	「地球温暖化問題の展望」
第 166 回	2005 年 11 月	神崎 武法	・公明党代表	「公明党の今後」
		田中 均	・前外務審議官	「東アジアにおける日本の戦略」
第 167 回	2005 年 12 月	岩見 隆夫	・毎日新聞特別顧問	「政治はどうなるか」
		渡辺 泰造	・日本国際博覧会政府代表	「日本の財産となった愛・地球博」
第 168 回	2006 年 1 月	福田 康夫	・元内閣官房長官	「これからの日本」
		松原 亘子	・前駐イタリア大使	「イタリア雑感」
第 169 回	2006 年 2 月	加藤 紘一	・元自民党幹事長	「新しき日本のかたち」
		高島 有終	・前駐ドイツ大使	「最近のドイツ情勢」
第 170 回	2006 年 3 月	平沼 赳夫	・元経済産業相	「これからの政局」
		時野谷 敦	・前駐タイ大使	「タイの情勢について」
第 171 回	2006 年 4 月	渡部 恒三	・民主党国会対策委員長	「これからの政局と民主党の立場」
		伊集院 明夫	・(財)ラヂオプレス理事長	「北朝鮮を考える」
第 172 回	2006 年 5 月	久間 章生	・自民党総務会長	「これからの政局」
		朝海 和夫	・前EU日本政府代表部大使	「日本とEU関係」
第 173 回	2006 年 6 月	山崎 拓	・自民党前副総裁	「政局の行方」
第 174 回	2006 年 7 月	谷垣 禎一	・財務大臣	「日本のこれから―福岡経済の将来展望」
		平林 博	・前駐フランス大使	「転機に立つ仏と欧州」
第 175 回	2006 年 8 月	河野 洋平	・衆議院議長	「議長として思うこと」
第 176 回	2006 年 9 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「新政権の課題と今後の政局」
		登 誠一郎	・前駐OECD大使	「日本の安全保障と外交の役割」
第 177 回	2006 年 10 月	山本 一太	・参議院議員	「安倍政権の挑戦と展望」
		堀村 隆彦	・前駐ブラジル大使	「新しい時代のブラジル・日本の関係」
第 178 回	2006 年 11 月	鳩山 由紀夫	・民主党幹事長	「小沢民主の安倍政権への挑戦状」
		辻本 甫	・前駐アラブ首長国連邦大使	「大使が見た最近のUAE情勢」
第 179 回	2006 年 12 月	15 周年記念シンポジウム 「アジアにおける日本の役割―過去、現在、そして未来を語る」		
		(インド) スレーシュ・プラブ元電力大臣・(タイ) タノン・ビダヤ前財務大臣		
		(マレーシア) アザリナ・オスマン現青少年・スポーツ大臣（日本） 額賀福志郎前防衛庁長官		
第 180 回	2007 年 1 月	中川 昭一	・自民党政務調査会長	「今年の政治展望」
		重村 智計	・早稲田大学教授	「北朝鮮の核実験と日本外交」
第 181 回	2007 年 2 月	岩見 隆夫	・毎日新聞編集局顧問	「参議院選挙と安倍内閣の行方」
		村上 徳光	・前駐レバノン大使	「最近のレバノン情勢」
第 182 回	2007 年 3 月	片山 虎之助	・参議院自民党幹事長	「安倍内閣の今後と政局雑感」
		小池 寛治	・前駐オランダ大使	「最近のオランダ事情と日蘭関係」
第 183 回	2007 年 4 月	石破 茂⇒中止	・元防衛庁長官	「日本の外交と安全保障」
		北岡 伸一	・前国連大使	「日本の国連外交とアジア」
第 184 回	2007 年 5 月	古賀 誠	・元自民党幹事長	「当面の政局について」
		沼田 貞昭	・前駐カナダ大使	「日加及び日米間の知的交流」
第 185 回	2007 年 6 月	石破 茂	・元防衛庁長官	「日本の外交と安全保障」
		横田 淳	・前駐イスラエル大使	「イスラエルと中東和平問題」
第 186 回	2007 年 7 月	山崎 拓	・元自民党副総裁	「参院選後の政局展望」
		内藤 昌平	・前駐ベルギー大使	「進化するNATOと日本」
第 187 回	2007 年 8 月	河野 洋平	・衆議院議長	「議長として思うこと」
第 188 回	2007 年 9 月	鳩山 由紀夫	・民主党幹事長	「参院選勝利とこれからの民主党の戦略」
		斎賀 富美子	・前駐ノルウェー大使	「最近のノルウェー事情」
第 189 回	2007 年 10 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「安倍退陣と新政権の行方」
		榎田 邦彦	・前駐エジプト大使	「エジプトから見た世界」
第 190 回	2007 年 11 月	浜四津 敏子	・公明党代表代行	「ねじれ国会での仮題と展望」

『毎日・世論フォーラム』会員		
2017年7月現在 (掲載順不同)		
名誉会員		
九州経済連合会	福岡商工会議所	北九州商工会議所
特別会員		
福岡県 福岡市 九州電力 福岡銀行 西日本シティ銀行 西日本鉄道	西部ガス 肥後銀行 山口銀行 九州旅客鉄道 九電工 アール・ケー・ビー毎日放送	西日本電信電話 電通九州 ふくや 総合メディカル タマホーム 九州自動車リース
一般会員		
ACR アオヤギ アサヒビール アトリエ香 アネスティソフトウエア マックスバリュ九州 石本建築事務所 泉屋急配 エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州 エントリースerviceプロモーション 大庭産業 オリックス保険福岡支店 鹿島建設九州支店 北九州市 北広 キャタピラー九州 九州産業大学 九州北部税理士政治連盟 九州電気保安協会 九電テクノシステムズ コカ・コーラジャパン 共立地所 西部ガス情報システム 三晃空調九州支店 C. I. Nine 松影堂印刷 ジョブ・ネット 新出光 スポーツニッポン新聞西部総局 住友商事九州 西研グラフィック	西部日本エンタープライズ ゼンリン 創価学会 泰平印刷 台北駐福岡経済文化辦事處 筑豊製作所 東京ニュース通信社 中村学園 西鉄シティホテル 西山孝司税理士事務所 日本航空 日本製紙九州支社 日本トリム福岡支社 ニューオータニ九州 日本労働組合連合会福岡県連合会 ネットヨタ福岡 博多ステーションビル NPO 法人博多の風 博運社 ファビルス 福岡空港ビルディング 福岡クリーンエナジー 福岡県国際交流センター 福岡県信用保証協会 福岡県すこやか健康事業団 福岡工業大学 福岡大学 福岡中央銀行 福住 ホテルオークラ福岡 BELVISO	ホテル日航福岡 ホライズン・ホテルズ博多営業所 堀建産業 マサキ測量設計 松本組 丸住製紙九州支店 丸美金属 みらい 明和不動産 ユニマットライフ ラッキー自動車 大分県福岡事務所 鹿児島県福岡事務所 熊本県福岡事務所 宮崎県福岡事務所 北東北三県福岡事務所 ふくおか県酪農業協同組合 セイワ地研 昭和自動車 トリゼンフーズ エイワ産業 ピザクック 西部毎日広告社 毎日アドセンター 毎日新聞九州センター 毎日新聞西部アシスト 毎日新聞福岡都市圏専売会 毎日ビルディング 毎日メディアサービス

第 248 回	2012 年 11 月	松野 頼久	・日本維新の会国会議員団代⇒【変更】	「解散総選挙とその後の政局展望」
			松田喬和 毎日新聞論説室専門編集委員	
第 249 回	2012 年 12 月	林 芳正	・自民党参議院議員	「指導者交代の時代」
第 250 回	2013 年 1 月	岸井 成格	・毎日新聞主筆	「安倍新内閣と内外情勢の行方」
第 251 回	2013 年 2 月	石破 茂	・自民党幹事長⇒3 月に延期	「自民党はどう変わったのか」
第 252 回	2013 年 3 月	浜田 宏一	・内閣官房参与（米エール大学名誉教授）	「アベノミクスと日本経済の復活」
第 253 回	2013 年 4 月	山口 那津男	・公明党代表	「今後日本がとるべき針路」
第 254 回	2013 年 5 月	渡辺 喜美	・みんなの党代表	「これからの政治動向について」
第 255 回	2013 年 6 月	森本 敏	・拓殖大学教授（前防衛大臣）	「今後の国際情勢と日本の課題」
第 256 回	2013 年 7 月	御厨 貴	・政治学者	「参院選後の政局の行方」
第 257 回	2013 年 9 月	下村 博文	・文部科学大臣	「日本の教育再生への取り組み方」
第 258 回	2013 年 10 月	野田 毅	・自民党税制調査会会長	「日本の税制を考える」
第 259 回	2013 年 11 月	古賀 誠	・前衆議院議員	「33年、政治活動を振り返って」
第 260 回	2013 年 12 月	松野 頼久	・日本維新の会国会議員団幹事長	「維新がめざすもの～国会審議の行方」
第 261 回	2014 年 1 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「2014年を占う～安倍内閣と政局の行方」
第 262 回	2014 年 2 月	森 喜朗	・元内閣総理大臣	「2020年東京オリンピックと安倍外交」
第 263 回	2014 年 3 月	野田 聖子	・自民党総務会長	「今、思うこと」
第 264 回	2014 年 4 月	江田 憲司	・結いの党代表	「アベノミクスと野党再編の動き」
第 265 回	2014 年 5 月	山口 那津男	・公明党代表	「日本がとるべき今後の針路」
第 266 回	2014 年 6 月	細野 豪志	・民主党前幹事長	「野党再編と国政の行方」
第 267 回	2014 年 7 月	高市 早苗	・自民党政調会長	「持続的な経済成長を目指して」
第 268 回	2014 年 9 月	増田 寛也	・野村総合研究所顧問（元総務大臣）	「ストップ少子化・地方元気戦略」
第 269 回	2014 年 10 月	古屋 圭司	・前国家公安委員長 前拉致問題	「誇りある日本をめざして」
			担当大臣⇒（衆議院解散のため中止）	
第 270 回	2014 年 11 月	鳩山 邦夫	・地方創成に関する特別委員会委員長	「地方創生への取り組み」
第 271 回	2014 年 12 月	二階 俊博	・自民党総務会長⇒【変更】	「消費税増税と解散総選挙の行方」
			藤井 裕久・元財務大臣	
第 272 回	2015 年 1 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「2015年 政局を占う」
第 273 回	2015 年 2 月	鈴木 幸一	・インターネットイニシアティブ会長CEO	「グローバル時代のインターネット戦略」
第 274 回	2015 年 3 月	二階 俊博	・自民党総務会長	「国土強靱化 海を渡る」
第 275 回	2015 年 4 月	平沢 勝栄	・衆議院議員	「憲法改正や国際テロの動きなど安倍政権の当面の課題」
第 276 回	2015 年 5 月	石破 茂	・地方創生担当大臣	「地方から創生する我が国の未来」
第 277 回	2015 年 6 月	野田 佳彦	・前内閣総理大臣	「野田政権482日とこれからの民主党」
第 278 回	2015 年 7 月	小野寺 五典	・元防衛大臣⇒【変更】 松田喬和・	「安保法制と安倍内閣の行方」
			毎日新聞特別顧問	
第 279 回	2015 年 9 月	亀井 静香	・衆議院議員	「戦後70年～日本のゆくえ」
第 280 回	2015 年 10 月	馬場 伸幸	・維新の党国会対策委員長	「維新がめざす改革と国政進出のねらい」
第 281 回	2015 年 11 月	古屋 圭司	・前国家公安委員長 前拉致問題担当大臣	「誇りある日本をめざして～北朝鮮拉致問題 国土強靱化と地方創生」
第 282 回	2015 年 12 月	山口 那津男	・公明党代表	「直面する重要政治課題」
第 283 回	2016 年 1 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「2016年の世相を占う」
第 284 回	2016 年 2 月	鈴木 大地	・スポーツ庁長官	「スポーツ庁の創設と新たなスポーツ行政」
第 285 回	2016 年 3 月	舛添 要一	・東京都知事	「東京一極集中と地方創生」
第 286 回	2016 年 4 月	田村 明比古	・観光庁長官⇒【変更】	「観光立国・日本のあるべき姿」
			蝦名邦晴・観光庁次長	
第 287 回	2016 年 5 月	枝野 幸男	・民進党幹事長	「民進党がめざすもの～野党の責任」
第 288 回	2016 年 6 月	田中 伸男	・国際エネルギー機関（IEA）元事務局長	「嵐の中のエネルギー戦略」～低石油価格時代と持続可能な原子力技術～
第 289 回	2016 年 7 月	倉重 篤郎	・毎日新聞論説室専門編集委員	「参院選結果と安倍政権の課題」
第 290 回	2016 年 9 月	石破 茂	・前地方創生担当大臣	「地方創生とこれからの日本」
第 291 回	2016 年 10 月	山崎 拓	・元自民党副総裁	「今語る、YKK秘録と安部外交」
第 292 回	2016 年 11 月	三浦 瑠麗	・国際政治学者	「アメリカ大統領選と日本を取り巻く国際情勢」
第 293 回	2016 年 12 月	岸井 成格	・毎日新聞特別編集委員	「急展開する外交と政局のゆくえ」
第 294 回	2017 年 2 月	ピーター・ランダース	・米ウォールストリートジャーナル東京支局長	25 周年記念講演 「トランプ大統領の誕生と日米経済のゆくえ」
第 295 回	2017 年 3 月	藻谷 浩介	・日本総合研究所主席研究員	「日中韓米の人口成熟と九州の未来」
第 296 回	2017 年 4 月	前原 誠司	・元外務大臣	「現下の政治課題とあるべき国家像」
第 297 回	2017 年 5 月	高村 正彦	・自民党副総裁	「最近の内外情勢」
第 298 回	2017 年 6 月	桜井 俊	・前総務事務次官	「ICT× 地方創生」
第 299 回	2017 年 7 月	小野寺 五典	・元防衛大臣	「日本の防衛を考える」
第 300 回	2017 年 9 月	石破 茂	・自民党元幹事長	300回記念 「時代の論点」 ～これからの25年～
		山田 孝男	・毎日新聞特別編集委員	

缶詰になった新しい
明太子の楽しみ方。



「味の明太子」の粒を上質の綿実油と合わせ、ベースの辛さは残しつつも、マイルドでコクのある味わいに仕上げています。缶にしたからこそ出来た、生の明太子とはまた違う新しい味をお楽しみください。

明太子 油漬け
1缶(85g) **756円**(税込)

300万個突破!! めんツナ | ガンガン ※めんツナかんかん食べ比べ3缶セットもございます

めんツナかんかん 1缶(90g) **300円**(税込) 人気定番

めんツナかんかん・辛口 1缶(90g) **300円**(税込) 辛さ増量

めんツナかんかんプレミアム 1缶(90g) **400円**(税込) 明太子増量

ふくや直営店または通信販売にてお求めいただけます。

直営店 右記QRコードより直営店リストをご覧ください。

お電話 0120-86-2981 携帯電話からもフリーダイヤルがご利用いただけます 受付時間/9:00~18:00

明太子をつくってよかった。 博多中洲 **ふくや** www.fukuya.com



HigoBank

うるおいある未来のために。
肥後銀行

自動車リース事業を中核に、
地元のお客様との結びつきを大切にしながら、
きめ細やかなソリューションを提供します。



メンテナンス受託

自動車販売

自動車リース
車両管理をトータルに代行。
車両の保有リスクを軽減し、
経営の合理化に貢献します。

機器リース

車検・修理

損害保険

KCL 九州自動車リース株式会社 〒812-0896 福岡市博多区東光寺町1丁目2番7号
TEL 092-431-4361 FAX 092-475-2610
http://www.kcl.co.jp

取締役会長 近藤 勲

私たちの仕事は
建物に命を吹き込む
仕事です。

この街と
一緒に生きる。



Make Next. 九電工

祝 毎日・世論フォーラム25周年



ENTRY GROUP

総合人材派遣・人材教育・イベント運営・映像制作

エントリーサービスプロモーション株式会社
〒810-0001 福岡市中央区天神3丁目6-26
代表092-712-4505



スポニチ

やっぱり話のタネに読んどかないとね。

スポーツ Annex

祝 毎日・世論フォーラム25周年

ZENRIN
Maps to the Future

株式会社 ゼンリン
〒804-0003 福岡県北九州市戸畑区中原新町3番1号

www.zenrin.co.jp

NISHITETSU GRAND HOTEL



これまでの半世紀を
50th Anniversary

西鉄グランドホテルは
2019年に
50周年を迎えます

西鉄グランドホテル
福岡県福岡市中央区大名 2-6-60 http://www.grand-h.jp
TEL.092-781-0711



人につくす、街につくす。

株式会社 **セイワ世研**

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目8-17

TEL092(713)5600

www.seiwachiken.co.jp

めざせ!
管理
No.1
43周年



出会い、ふれあい、お付合い。

共立地所株式会社

〒810-0022 福岡市中央区薬院4丁目1-10 共立薬院ビル2階

TEL092(521)8111/FAX092(521)8141

www.kyoritsu-jisho.co.jp

ふくおかに住む
あなたの安心 **ふくじゅう** です

【総合不動産業】

- 不動産売買仲介
- 賃貸仲介
- 賃貸管理
- テナント・オフィス仲介
- コインパーキング事業
- 自社開発事業
- 相続対策
- 土地の有効活用
- リノベーション



株式会社 **福住** FUKUJU CORPORATION

〒810-0001

福岡市中央区天神2丁目4番15号 プリオ天神ビル

TEL 092-712-0245 FAX 092-712-4350

HP http://www.fukuju.co.jp



ネットCM
「世界に広がる創価学会」

SOKANET ◇ <http://www.sokanet.jp>



アメリカ篇



イタリア篇

あなたの、あしたを、あたらしく。

創価学会

住所 ◇ 〒812-8604 福岡市東区松田3-4-11

電話 ◇ 092-624-5214

祝 毎日・世論フォーラム25周年

イメージを形にします
Digital

Digital On Demand
Variable Printing

デジタルオンデマンド印刷の
ご用命は



アオヤギ株式会社

本社 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目9-31
TEL 092-761-2431 FAX 092-761-0484

箱崎事業所 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6-39
TEL 092-641-8300 FAX 092-641-1429

携帯カメラで
読み取れます



ホームページ <http://www.aoyagi-f.co.jp>

アオヤギ 検索



オトナのネクタイ



BELVISO

General Trading Company

〒812-0018 福岡市博多区住吉3-5-15吉田ビル1F
☎ 092-291-0606



ピザクック
福岡こだわり宣言

ピザクックは福岡で生まれ
福岡の皆様に育てていただきました。
これまでもこれからも福岡の皆様
に「福岡産」「九州産」「地産地消」
にこだわった商品をお届け
させていただきます。

★★★おいしさへのこだわり★★★



<http://www.pizzacooc.com>



ピザクックイメージキャラクター
福岡ソフトバンクホークス
のふるり
3 松田 宣浩 内野手
© SoftBank HAWKS



祝 毎日・世論フォーラム25周年



25th Anniversary
おかげさまで
開業25周年
HAKATA EXCEL HOTEL TOKYO

博多 エクセルホテル東急

HAKATA EXCEL HOTEL TOKYO

〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲4-6-7

TEL 092-262-0109 FAX 092-262-5578

<https://www.hakata-e.tokyuhotels.co.jp/ja/index.html>



10th FFG

10th ANNIVERSARY

地域とともに新しい未来へ

ふくおかフィナンシャルグループは、
2017年4月に10周年を迎えました。

毎日・世論フォーラム25周年記念誌

講演要旨をホームページ上で公開しています

「毎日・世論フォーラム」に関する最新情報、講演会のお知らせ、これまでの講演一覧、入会に関するご案内をアップしています。



毎日・世論フォーラムホームページ <http://www.yoron-forum.jp/>

編集後記

「もうフォーラムは君で終わらせて…」
独特の大牟田訛りが個性だった前事務局局長の小柳進さん（故人）の引き継ぎの言葉を今も忘れず。経済部記者時代から長年事務局を担当、足かけ20年にわたり世論フォーラムを支え、財界人の社交場「こやなぎ会」は今も引き継がれている。

フォーラムの舞台裏は常に政局の動向に左右されるキャスティングとスケジュール調整に翻弄された。また、バブル経済の影響が少なかった九州だったが、徐々にバブル崩壊、金融危機で企業の合併や倒産もあり、発足時の会員数は漸減、リーマンショックはさらに追い打ちをかけた。

6年前、小柳さんからフォーラム事務局を引き継いだ。連絡作業に追われ、ひたすら携帯を握りしめていた小柳さんの姿を思い出す。20年分の引き継ぎで渡されたのは財界人の「携帯電話番号メモ」だけだった。小柳さんは常々「たいへん孤独で辛い作業」と漏らしていた。きつと「辛いのは僕だけで十分」と伝えたかったのか。今後も講演会の運営が「綱渡り」状態であることには変わりはない。

とはいえフォーラムの火を消すわけにいかない。多くの企業・団体とそれぞれ担当者の方々、講師招聘の窓口である東京政治部の仲間の支援と協力に支えられ、2012年に20周年、そして今年25周年を迎えることが出来た。基礎を築いてくれた小柳さんに担当者としては感謝の気持ちで一杯である。と同時に次の25年、否50年に向けて努力を続けていく決意である。（松）

発行日 2017年(平成29年)12月1日
発行人 「毎日・世論フォーラム」 理事長 岩松 城
事務局 毎日新聞福岡本部代表室内
〒810-8551 福岡市中央区天神1-16-1 毎日福岡会館

スタッフ 事務局＝松中友広、筑紫悦子、太田理香
西部毎広＝松田和久、中嶋正人、森下正
編集デザイン 株式会社 利助オフィス
印刷 アオヤギ 株式会社